

弓削通信

第101号

発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

謹賀新年

……であります。



旧年末には「弓削通信・百号」発行が達成され、発行者にはそれなりの感慨が発生したものの「お祝いをしましよつちやー」この声はついに上がらず、まあそつちやもんではあります。

した面持ちを映し出し、指揮者の表情、客の表情と、過不足なく演奏を観る楽しみを満喫させてくれるのであります。これはもうテレビ席の特権でしょう。

指揮者の目配りに応える奏者、それをもりあげる観客。そつちや有様をみていると、今度は実際に演奏会に出かけてみたくなります。ウーインとまではいきませんが身近なコンサートへ行きたい。

テレビが仲立ちの音楽との出会い。そんなコンサートへの入り方もアリでしょう。

今治市や尾道市の広報をみる「子ども劇場」等の活動が掲載されています。

「子どもに生の舞台を体験させ

が親となり、自分たちの子どものために、またこつち活動を始めたいの期待するしかない状態になっていっています。

何事によらず活動の継承という事は、価値観の共有が前提ですから、世代交代も中々むづかしいですが、済んだオトナにはともかく、子どもたちには出会いのチャンスはいっぱい欲しい、与えたい。なぜなら「出会い」こそ全ての始まりなのです。

芝居や美術館、コンサート、博物館や動物園、子どものための施設工トセトラ。県都松山周辺には色々あるかもしれませんが、島の子どもたちには遠い存在。どうすれば身近なものに出来るでしょう。

夢あれば見えるものあり 独り立ちの気概を 子どもに育む

思い出せば……、テレビ席でのクラシックコンサートはいいものでした。元旦の「ウーインフィル・コンサート」を観ました。

音楽のメツカ、古都ウーインから全世界へ衛星中継された世界最大の音楽の祭典。指揮は人気マリス・ヤンソンス氏でありました。ご覧になった方も多かったです。

よう「と、親と子が会員になり、その会費を積み立てて劇団をよぶ、といった手作り劇場運動は三十数年前福岡市から始まりました。この運動は、ついには全国規模のネットワークを達成したのですが、反面、ネットワークに組み込まれることで足元が浮いてしまい、活動がしぼんでしまった団体もあります。

何年か前、愛媛交響楽団の移動公演会が弓削町民体育館でありました。が肝心の子ども数はまばら、一般客もまばら。たしかにお知らせ放送はあったようですがそれがそれ以上の働きかけが足りなかった。

楽団員にとっても、心ある人たちにとってもせいがたい(やりがいのない)としか言えないような結果ではなかったのではないだろうか。

会場ホールは何百年の歴史を誇る絢爛さ。二階西袖をほしめ、全ての席を満たす正装の客の熱気が会場にあふれているのが伝わってきました。

隣島因島市にも同じ趣旨で設立された「因の島おやこ劇場」がありました。最盛期五〇〇名の会員をかかえた当時、(平成一、二年頃)弓削の会員は五〇名ほど、岩城や生名にも会員がいました。しかし活動を継承する世代交代がうまくいかず、いまでは当時子ども会員であった人たちが

自立していく町、特色のある町を目指すなら、郷土文化だけではなく外の文化にも積極的にアンテナを向けなければ夢は叶わない。もつと出会いを！、です。

やはり「本物に触れる機会をみすみす無駄にするのが特徴である町」の住人だけにやはりたくなくと、改めて思っ年の初めなのであります。

みなさん、がんばっていきましょよー！

舞台は現代のオーケストラには小さ過ぎるのか奏者が端から端までびっしりで、指揮者背後の手すりには舞台ぎりぎり。指揮者が転落せはせぬかと要らざる心配をしたものでした。

曲の一部始終を心得たカメラアングルは「ハイ」から「出番」という楽器のアップや、奏者の緊張

【写真説明】弓削島はひょうたん型。そのくびれ部分が下弓削。役所があり埋め立て地に消防署が漸築される。上島架橋のうち弓削大橋に続く生名橋着工に伴い県道改良工事進む。海岸線も変わり、渚の消滅と共に「島らしさ」の一つも消滅。佐島・生名島が橋でつながり、その向こうの岩城島とが橋で繋がったとしてもこの景観の本質は変わらない。それをどうするか。

自然界でもちょっとした異変? ****

バードウォッチングの世界でもちょっとした異変があるようだ。ことしは渡り鳥が少ない、と感じてきた。



上島町にオオハクチョウ! 異変?による珍しい事態か、昨年12月下旬、町内岩城地区の赤穂根島の水田後にオオハクチョウが飛来した。四国西条市にも初めてコハクチョウの群れの飛来があったとかで、嬉しいような複雑な気分させられる。(写真提供：岩城地区宮脇様)

便利から

弓削通信御中

通信第100号、拝読しました。

1991年6月から数え14年以上の長きに渡りここまで発行されてきた事に、まずは率直に、すごいことであると感嘆いたします。誰にでもできることではないと、率直に認めたいです。紙面上ではミニコミ紙と書かれていたが、どうしてどうして、弓削通信があったからこそ成し得た、さまざまな人と人との結びつきや活動のコラボレーションがあったと感じております。そしてそれが、少なくとも弓削や周囲の地域への良い意味での影響を与えてきたと考えられます。

さて今号のトピックの1つである「本当の豊かさ」についてですが、奥の深いテーマだと思います。価値観は人それぞれ、したがって「豊かさ」へのそれも同様でしょうが「本当の」豊かさとはいったいどういうものなのか、考えてしまいました。

結果、自分なりに思ったことは「比較の無い精神的な自立」なのかな、と。この事は、もしかすると、「愛しむ」ことなのかもしれない、というものでした。愛しむ対象を自らに向けるか、周囲に向けるか、あるいは人ではなく、生活する環境に向けるか、などで感じ方も異なるものなのでしょうね。これからのますますの発展にエールを送ります。

by 通信愛読者



成人式あれこれ

平成十八年の成人式は生名島地区で挙行された。「所変われば品変わる」と言われるが一つの町になったとはいえ細かい部分で地域性が滲み出ていて興味深かった。

記念イベント

恒例の記念イベントも、有名な人の公演、講演とかでなく、地元と長年にわたる付き合いのあるM女史による伝統和楽器(琴、三味線)演奏。そして彼女が見いだした宝物のような存在と称する弟子(地元小学生)や、地元の和楽器奏者(尺八)との共演など、交流と出会いを通低音にプログラムされたもののように思われる。経費削減の意味もあるのかもしれないが、要は参加者が何を感じ、何をくみとるか、だ。

変わる青年像

青年像も表面的には年ごとに変化が見られる。数年前は「荒れる成人式」が多かった。最近はそのような話題もすくない。「荒れる成人式」あたりから「公」主催の成人式の在り方そのものが、その存続も含め取りざたされ始めたが、青年たちがオトナシクあれば当分は小康状態が続くのだろうか。それとも別次元で経費削減の一環として行事終了に向かうのであろうか。

祝辞

今年の町長の祝辞はなかなか

「成人式」若者はして頂くことに慣れすぎて

かよった。

成人式の祝辞と言えばオトナとしての「権利と義務」に関するお説教ときまづいているが、今年の町長の話は、昨年の衆院選挙での自民党地滑り的勝利と、その後の国会での法案審議を例に、選挙の結果が直ちに国民生活に影響することを語り、選挙権に絞った短くて良い祝辞であった。

議長も選挙権には触れたが、選挙で選ばれる者の集団である「議会の意義」を強調してもよかつた。

女子の晴れ着について

女子は和服の晴れ着姿が圧倒的に多かつた。年々そうなるているのかどうかは何年も招待される機会がなかつたので判断としないが、成人式での女子の和服着用に関しては華美、その他の理由で、過去に規制がかつた例がある。最近またそのようなささやきも聞かえはじめた。しかし考えてみればT・P・Oをわきまえることをはじめ、何を着ようと個人の自由。オトナとしての諸権利を認め

られてなお規制の元にしか自己の行動を律することができないなら、成人とはなんぞやと改めて問わねばならぬ仕儀とは相成る。

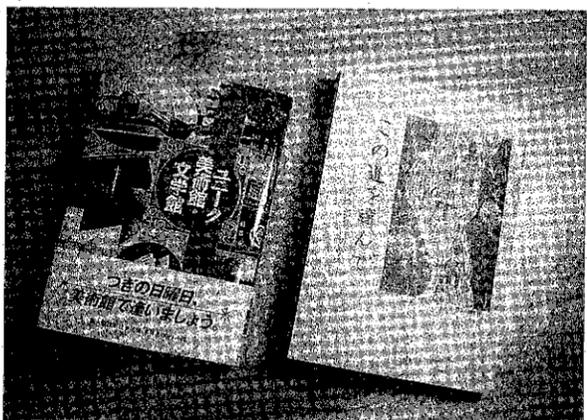
オトナになってください

華美も地味も、それぞれの個性である以上、もし他人の個性に揺らぐ自らの個性があつたとするならば、ゆらぐ自分を顧みる自己確立が欲しい。そうでなくてはオトナとしてかなわない。

言い換えれば横並びでしか安心できない子や親の言い分、あるいはお為ごかしに流され「衣装の規制などすべきではない」ということ。それはつまりオトナのことではないからだ。

これからのト

成人式と言う行事に関しても、その挙行、運営等、やはりあらためて議論をしてみる必要があるのではないかと思う。その過程でオトナ側の「オトナ度」の再確認もできるかもしれない。

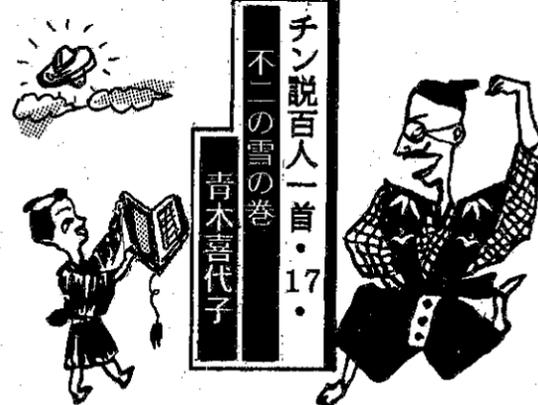


【新刊書紹介】弓削通信98号で紹介した「日本全国いちおしユニーク美術館/文学館」2730円(税込み)が完成。発行は1月30日、新人物往来社。ユニーク美術館シリーズの7冊目。

平山久子が60館余のうち「なかつた美術館」「村上三島記念館」「タオル美術館 ASAKURA」の取材記事を書かせていただいた。弓削通信でも注文お受けいたします。(割引あり)

●弓削道鏡の名誉回復のため研究と活動をしている「道鏡を守る会」の事務局長・本田義幾氏は、現職の小学校教師。このたび定年を機に励んでこられた教員生活を振り返り「一小学校教師の歩み・この道を選んで」を自費出版された。

「生まれ変わっても、またこの仕事をしたい」との氏の教育に対する熱い思いが伝わってくる。(非売品)貸し出しします。



田子の浦にうち出てみれば 白妙の 富士の高嶺に雪は降りつつ

これほどお正月にぴったりの歌はないと思う。前日までのタバタが、夜が明けたというだけでしんと静まり、澄んだ空気がいかに新年という気がする。

お正月といえは年賀状。今年は何通届きましたか?。我家ではずっと手書き。十二月に入ると夫は千支の版画の彫りと刷りを、私は書く方を請負う。元日の朝は配達のパイク便の音が待ち通しい。

以前は表書を見ただけで誰とわかつたけど、今はほとんどがパソコン。最近のパソコンは腕をあげ、実際に筆で書いたような味わいを出している。意地悪な私は指を濡らしてなぞつてみたりする。そんな中、心のもつた手書きの賀状をいただくと、やっぱり年に一度くらいは筆かペンを持つてほしいと思う。

十年くらい前から初詣に行くときケータイ片手の若者が大声でおめでどうコールをしているのを見る。もし万葉の頃ケータイがあつたなら、こんにち、美しく流れるような色紙を目にするのもなかつただろう。せめてお正月くらいは百人一首を出して坊主めくりでもして、良き日本文化にふれてみたい。

帰省できない子ども達に新たな気持ちで来る年を迎えるようにと、新しい箸と肌着を届けた。年来の私の同級生には、せめてお正月くらい普段で着ないことをしてみたいね、着物を着てみるとかして楽しもうね、と話した。その同級生がダンナに「せめてお正月くらいは...」と言ったらしい。するとダンナは「いや、いい!」と事務的に答え、片手で器用にメーブルを打っていたそう。

弓削通信

第102号
発行所：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

旧弓削町のゴルフ場開発計画、凍結のまま

えひめ 瀬戸内リゾート構想廃止

愛媛県が一月末日、「えひめ瀬戸内リゾート開発構想」を廃止した。上島町を構成する各旧町村も、ひとときバラ色の夢を見、半信半疑だったが、もしもそれが実現しても「もしかしたら・・・」と淡い希望を抱いた時期があった。

バブル経済がはじけると、開発よりも環境が大事と、リゾート開発は潮の引くように熱が引いた。はるか昔の出来事だったが、な気がするが、ほんの十年足らず前の事である。

景気が活況を呈すれば開発熱は必ず息を吹き返す。抛り所となる決め事が残ってはいまだそれが引張りだされるとの不安があった。ともあれこれで一連の騒動の決着がついた。

当時の関連記事スクラップをひも解いてみると、今なお解決されていないらしい問題点が浮き上がってくる。行政庁職員の能力開発はいかに、という問題である。「民間活力の活用で硬直化した地方自治体の活性化を」とと政府が旗を振り、補助金目当てで

それにつた地方の自治体。言葉は悪いが自己変革をせぬまま甘い汁をいただこうとしたのであった。だからというか、そうは問屋がとおさず、逆に甘い汁を吸われ、未だにその尻拭いに汲々としている所もあるようだ。

口に甘い「民間活力」はしたたかな生き物。その本性は「転んでまた起きる」。そこでなくては、大勢の従業員を養えない。

末端の自治体は先端を走れるようになるには、自分たちの町の行く末をコンサルタントに丸投げして考えてもらおうようでは仕方ない。次のコトが起きたとき、やはり他人の手カフを頼らねばならなくなるからだ。能力を高めるには、一度お手本を見れば次からは自分たちで工夫してやる、ということだろう。



身を以てそれを学んだ自治体なら、払った授業料は役に立ったと言える。さてどうだろうか。

かの悪法は、ゼネコンの事業拡大の足かせになる各種規制を取っ払う目的で作られた。「地方の活性化」とかは、餅にまみらすきな

一連の騒動の 決着におもう

「リゾート法」にのつかって一旗揚げようとした後発業者や自治体は軒並み失敗した。が、「民間活力」は時すでに次の一手を打っており、引き続き「構造改革特区」という規制はきとり装置を発明した。

かくのごとく現在にあつては、構造改革特区指定が地方の自助努力をうながすというオブラートに包まれて法制化されている。もちろんコンセプトのある目論みのものでは、「特区」に指定されれば有利な環境になるはずであらう。要はその有利な環境を活用できる能力を、リゾート法の洗礼を受けた自治体職員に十分獲得させてきたかどうかということ。



「広報・かみじま」2月号に、町長が先の十二月定例議会で述べた「行政報告」が掲載されている。その中で、「県から市町へ財政的支援、人的支援に関する権限委譲について上島町職員全員に要望がないかどうか二度にわたり書類を回したが一件も提案がなかった」と嘆いている。

町長はまた、提案がないのは自分の仕事が増えるのが嫌だからではないか、など意気のあるがらぬ分析をしているが、当否はともかく、こうしたいわば身内の恥に似た事態を報告の中で嘆くのもいかに感じつつ、おかげで外部からではどうかといわれぬ職員一般の宿痾というものが見える気がするのかもしれない。

病気が見えなければ治療法も考えられないわけで、暴露は町長の苦肉の策かもしれぬ。

ひとくちに職員の意識改革とはいかが簡単ではなからう。しかし「こで言いたいのは、おかしらから批判されたとして職員は、決して逆恨みなどいじけて不毛な時間を費やさず、願わくは大いに反骨精神を発揮し、町長の鼻を明かす見事な提案と実践をして見返してもらいたいということ。」

「えひめ瀬戸内リゾート構想開幕を受け、やはり民間活力を自家業籠中の物とする能力を、このほか行政庁職員には磨いてほしいと願う。なぜなら、強制でしか自己変革できないなら、どうしてこの町の自立はおぼつかないだろうからだ。」



声援を受け最終区間を力走するランナー(生名港で)

2月5日、生名島一周駅伝大会にて

1 特別職の給与削減案



★ 議案の修正



「質問。町長が給料の10%カットを申し出たのに(議会が)5%にしたのは何故ですか?」というお便りがあつた。

たしかに疑問に思う方は多いかもしれぬ。考えてみれば広報ではその手の記事は載らぬし、CA TVではまだ一般質問しか放映されていない。議会傍聴でもしなければなかなかさういふいきさつは伝わらない。

町長の給料カット案は、平成十七年十二月定例議会で「上島町特別職の給与に関する条例の一部を改正する条例」として提出されました。

定例議会の冒頭に行われる町

長の行政報告のなかには、「隗より始めよ」という言葉に習い、四役については各人の意向と、町長が諮問した特別報酬等審議会の答申にもつき、約三・四%、六・三%の給与カットを、十八年一月一日より行う条例案を上げ

しており、町長につきましては厳しく自分を律する意味において、答申に上乘せした10%の給与カットを附則として加えております。とありました。(広報かみじま2月号掲載)

ところがその議案は、議員から修正動議が出され、《給料月額の特例として平成十八年一月一日から平成十九年三月三十一日まで町長の給料七十五万円を、その規定にかかわらず七十二万円とする》という附則第二項を削除し可決されました。

★ 議員の保身のため?

せつかく町長が10%の給与カットを申し出たのに議会が反対した。議員は自分たちの報酬が減らされるのを警戒してさういふ挙に出たのではないかと、といった議員批判が流布しているものと思われまふ。

修正に至る経緯を詳しく書けば紙数はたちどころに尽きますが、修正案が出るきっかけの発言をした者の務めとしておまの事情を記しておきます。

★ 真相はこうだ(その1)

今般の特別職給与カット案は、先になされた人事院勧告にもとづく公務員給与カットとは直接関係は無いでしょうが、公務員を統べる町のトップとしては心情的には関係がある筈です。

「隗より始めよ」この町長の言は、事有る毎にむしかえされるであろう人件費削減圧力、なかんすく職員給与カットへの圧力に先立ち最高幹部も自らの報酬には厳し

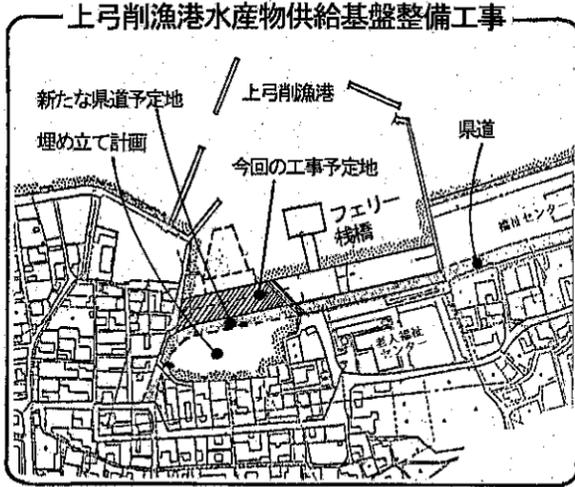
い目を向け、職員と痛みを分かち合います、というメッセージであらう。その意味で町長はまさに厳しく自らを律しようとしているのであり、志は是としましよ。

さて昨年十一月二十二日臨時議会で可決された上島町職員等の給与カット条例は人事院勧告に基づき、官民較差〇・三六%を調整するものでした。ほぼ全国同一の給与カットが殆どの自治体で成された筈です。もちろん上島町のように税収乏しい自治体にあつてはその程度で追付くはずがありません。

インターネットでも公開されている「人事院勧告の骨子」には、これからの改革として、地域ごとの民間賃金水準の格差を踏まえた公務員俸給水準の引き下げや、能力給への移行など、俸給構造そのものを変える必要性がうたわれています。

(裏面につづく)

18年1月臨時議会より



この工事は平成十一年の「上弓削漁港内県道改良工事」の続きです。県道用地を確保する目的もあり現在上弓削港棧橋あたりで中断している物揚場を向こう岸まで延長し、それで囲われる山側部分を埋め一部を県道として整備する工事の一環です。

2 国庫補助工事なぜ否決?

つぎは議案否決事例です。上島町議会初の議案否決となりました。年も改まり平成十八年一月二十五日招集された臨時議会において、工事請負契約二件のうちの一件が否決されました。工事内容は国庫補助事業である「上島町上弓削漁港水産物供給基盤整備工事」

指名競争入札。契約金額七千九百八十万円(税込)。(有)小川工務店が落札。予定価格八千七百九十五万円。応札業者七社のうち町内建設業者六社、松山市から一社。落札額と他の入札額の差は最大百万円。最小五十万円。

★ 全ては議会で決まる

問題なく通過するだろうと思っていた議案でしたが、質疑中に休憩動議が出され、およそ一時間余り後に再会。質疑、討論を経て採決の結果、賛成者八名、よつて賛成少数(一票差)として否決されました。

議案に賛成しなかった議員のうち地元上弓削選出議員二名の反対討論と質問が、翌一月二十六日付愛媛新聞に実名入りで掲載されました。

★ 機会を粗末にする気?

新聞記事によるとA議員は、「(落札業者)小川工務店は請負った工事に住民から苦情があったのに改善されてない。なぜその業者を指名業者にしたのか」と質問し、B議員は、「上弓削地域住民から、示された工法では具合が悪いと意見が出ている。添付図面三枚だけでなくもう詳しく説明しないと賛成できない」と反対討論をした。

17年12月定例議会より(つづき)

提出された特別職の報酬改正案

| | |
|-----|--------------------|
| 教育長 | 57万円→55万円(3.51%減) |
| 収入役 | 59万円→57万円(3.39%減) |
| 助役 | 64万円→60.8万円(5.0%減) |
| 町長 | 80万円→75万円(6.25%減) |

この改正案の町長分を、町長自身がさらに3万円カットし72万円(10%減)とする附則をつけた条例案。18年1月～19年3月までの期限つき。

★真相は「うだ」その2

ただし教育長給与は今般審議会に諮問されてはいなかったそうで、参考意見として答申され、結果的にこの額に改訂されました。答申案のうち町長分は、町長自身がさらにカットする額を三万円とし、それを答申された削減額五万円にプラスした八万円が、元の給与八十万円の10%減額分となる仕掛けです。

この上乗せ分三万円は平成十八年一月一日から翌三月末日までの期限規定。

★ 私はこう考えた

他の二役は審議会の答申通りでありながら、上島町長が、自ら

の給与の、さらにそれを上回るカットを、しかも期限規定で行うことをとする合理的な理由がない。どうしてもというなら単純に条例として七十二万円と定めればいいのではないか。

特別職給与の思い切ったカット案には賛成だが、答申案では町長だけ突出の感があるのにさらにそれを上回るカットをするのは単に10%にこだわっているだけではないのか。しかも期限規定ゆえ毎年条例を改定しなくてはならず、自分だけとはいえ公人の給与を恣意的に取り扱う意志、姿勢となる。

町幹部が恣意的行動をしない意思表示として諮問機関がある。町長はそこに諮問したからには素直に尊重すべきである。

というわけで総論賛成、各論反対という最も困る状況に陥ったわけです。

同僚議員とも基本的見解の一致を見ましたので、副議長発議で修正案動議がだされ、全会一致で報酬審議会答申案通りの給与額で決着したのであります。

上島町議会初の修正案可決となりました。



たしかにそういう発言がありました。そして世間ではその二人の意見が否決の理由だと受け止められている模様です。

年度初めの計画にも掲げられていたこの国庫補助工事の請負を今になって否定するとなると、どういうメッセージを、県、国に発することになるのでしょうか。

現実問題としてわれわれは、国の援助がなくてはやっていけません。卑屈になる必要はないが、機会を粗末にする必要もない。

★ まさかとは思わなかった

生名地区には議員の同族が経営する土木業者が二社あり、今回も応札しています。同じ条件で上程された「岩城漁港地域水産物供給基盤整備工事」(分割の四)は全員賛成で可決されました。上弓削の工事は、はなはだバランスを欠いた理解に苦しむ結果となりました。

本会議休憩中に噴出した町長の手法への不満は、議会としてきちんと申し入れるなどして改善、改革すればいい。議員の示威行為と見まがう、なら問題の無い議案を葬るようなことがあれば、議会・議員の自殺行為となるでしょう。

まさかとは思いますが町域が広がると町内業者が増えることで同族が公共工事を手にする機会が減る、といった、議員としては持つてはならぬ奇立が不満の背景にあるのでは、と疑いたくなる。

★ 転り落ちる坂道

議員の存在感、議会の権威というは「理路整然、公明正大」がモットー。書生論だ、理想論だといわれようと常に目線を向けていた。立派な大人がジェラシに類する情念に付和雷同的な動きをし、理事者の足を引っ張るよつでは、とうとう町民や理事者さらにはもつと上の機関の信頼を得ることができません。

★ ジェラシック・パーク

この案件はこのままにすることは出来ません。どういつカタチで修復されるのか記事を書いている今現在不明ですが、近々に結果があらわれるでしょう。

議会がジェラシック・パークにならぬよう鋭意努力したいです。

「上島おもしろ交流クラブ」例会
毎月第3水曜日午後7時～9時
場所:せとうち交流館体験交流室
問い合わせ先:77-2760(竹林清志)
77-3072(平山)
2月は15日(水)です。

「バードウォッチング」ご案内
主催:弓削野鳥の会(雨天中止)
集合:弓削中央公民館グランド
時間:午前9時～12時(車分乗)
参加自由。冬鳥の観察。三山方面
2月は19日(日)です。



中田ちくき

(6)

人それぞれだが、場面によっちゃ冬眠が必要な人もいる。PTA関係で用事をしていても必ず「子どもが小さいので何もできない」「仕事をしているから何も参加できない」と、決まり文句を言う人がいる。

そりやそうだろう。あるいは出来るのに「逃げ口上」として言う人も多い。

相当な努力をして参画しようとしても無理な人もいるし、やりもしない、やる気もない、居ても何にも役立たないのに、ひたすら逃げまくる人もいる。

反対に、でももしないのに首をつつこんでかきませ、最後の最後に「小さな子」と「仕事」を持ち出す人もいる。ま、そんな人らに何も期待なんかしないけど。

どう転んでも「何かをする」ってことは「別の何か」がゼツタイに犠牲になる。その犠牲と聞きたくない

は、快適な昼寝の時間だったり、TVタイムだったり、のんびりと過ごす至福の時とか、はたまた貴重な稼ぎの時間だったり、カラダの無理を押しての時間だったり、そりや人によって違うわなあ。

やりたくない人は、だからやらんでええ。口先だけの人もいらん。無理をする必要もない。ただ、やるからには「小さな子」や「仕事」を自分の隠れ蓑にしないで欲しい。

「小さな子」がいるのはわかりきっていること。「仕事」とおなじ。有料、無料いろいろ。専業主婦だからって、これも人それぞれに「用」の重要度も違う。だからできない時は遠慮なく冬眠すりやええと思う。つまり小さな子や仕事を口実に引き受けた役割を果たせないのなら最初から引き受けない。

でも冬眠して春を越し、しっかりと目覚め、いざ活動すると一旦きめたなら、その時はホンキでやってほしい。

私こそ・・・冬眠したい・・・

弓削通信

第103号

発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

上島町ケーブルテレビが制作し応募した作品が、愛媛朝日テレビ主催の「ふるさとCM大賞EHOME」で金賞に輝いたのは実にめでたい。副賞は一年間で百回、朝日系テレビで放送されるというのもさわやかでいい。筆者は上島町ケーブルテレビ番組審議会に委員として身を置いてるから、さらに喜びはひとしおである。

『ふるさとCM大賞』上島町が金賞！

おめでとう
上島町ケーブルテレビ
KITENE
あたらしいな

♪楽しい楽しい舞台裏

本町のケーブルテレビで紹介されたCM撮影の舞台裏、そもそもどんな舞台裏でも楽しいものだけど、これまた楽しかった。三〇秒ほどの「マーシャルを作るのにどれほど惜しみつつ捨てるべからぬシーンがあることか」。CMが発信するメッセージには、町を構成する五つの主な島々の思い入れがあらわれている。「きてねー」のアップルに「ハイハイ、行きたいな〜」と応じたくなる。手前味噌だといわれようとも筆者、勝手にやにきがつて「CM効果が期待できる」と悦に入っている。



♪お気楽夢見る春

これを見ながら思いがふくらんだのだが、弓削に関していえばオラが弓削島の名物「弓削のり」信・じゃなかつた、「弓削のり」は、これを機にもっともっと存在感を示してもよいのではなからうか。弓削には岩海苔、揉み海苔な

●懸案議案の可決

先月号の本欄で国庫補助事業の否決について、そのいきさつ等の概要を書きました。どうもつたのかとの問い合わせもあるところから、当該議案のその後について報告しておきます。

本年一月二五日の臨時議会で否決された上弓削地区での国庫補助事業「上弓削漁港地域水産物供給基盤整備工事」に関して、議案そのものに瑕疵があったわけではないですが、説明不足を理由に反対した議員もいたことからその後二月一〇日全員協議会が開催されて再度議案説明と今後の計画を理事者が説明しました。さらに席上、前回反対討論をした議員からは「当該工事には反対の理由を構成する項目が含まれなかったこと、当該工事で

●またまたある課題

上弓削地区中心部は継続する海岸の埋め立てで内陸化し、相対的な標高も低下し、大雨、台風時、山からの出水が高潮時と重なれば排水不能になるおそれが増しました。次年度から計画されている埋め立てとそれに含ま



議席11番

上島町議会議員
平山和昭

(11)

兵は拙速を尊ぶも行政は慎重に

れる現海岸線に沿った水路建設だけで果たしてそれらに対処できるかは疑問があります。全員協議会では、水路の土砂堆積、それを排除するための開所の設置、強制排水ポンプの設置など色々意見がだされましたが、根本的には排水ポンプの設置が必要であると考えます。

●どうしても必要なら

担当部署の説明によればポンプの設置は補助対象にならないか県に問い合わせるとのことですが、補助の有無にかかわらず、どうしても必要なものなら自前で設置しなければ真の住民の安全を守る姿勢とは言えないでしょう。地区内を縦貫する県道が、地区の人々も役所にお任せではなく様々なアイデアを出し合

★一年の計、三月定例会

三月定例会は一〇日開会、二七日閉会の予定で様々な議案が審議されます。予算審議のみならず「ユニ有料化に関わる問題」、「公的施設の指定管理者制度にかかわる問題」など、新しい町として進むにあたり何が問題で何が課題かが論議を通じて見えてくるものがあると思います。有権者、と言つたか一般の町民の方々も議会を注視し、議員にも注文をつけ、共に変わっていく姿勢を堅持しなければ町の将来に展望は開けないと感じています。「ありやあダメじゃー」と外野席で切つて捨てるだけではなにも解決しません。口も体も動かすことがなにより大切と感じています。

♪ゆげ島のりのり館

この地の地場産業のひとつである漁業は夏季の定置網、冬季の海苔養殖ではほぼ構成されているが、それに加え年間を通じて内外の人々を楽しませることの出来るのり専門の展示館があればなお楽しくはなからうか？もちろん新しい箱物でなくたっていい。

今治市朝倉のタオル美術館のように、海苔の生産過程を展示しつつ生産の一翼を担うブースとか、海苔を使ったオリジナル調理のブースもある「ゆげ島のりのり館」など非現実的だろうか？

♪のりのりクッキー

先の金賞CMで町内の名物男EM大将のM氏がガッツとかぶりついていたあの海苔は、やっぱりのり巻きにしてかぶりつきたい。町にはのり巻き名人はたくさんいるはず。節分とかお祭りにはのり巻きを巻いてみる。

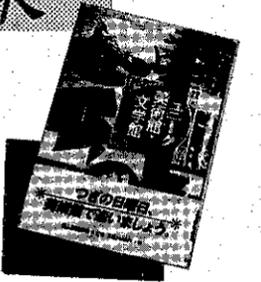
♪鉄は熱いうちに打つ

CM大賞金賞、その興奮が冷めるまでにどれだけいろいろやってみる事ができるか。これも大事なことだと思つた。生き残る町の試みとして、そして何より大切な、そこに住む人々がともに参加し、共に楽しむ、趣味と実益をかねた自慢の品物を育てる場として、季節限定で現場を博物館にした「ゆげ島のりのり館」への取り組みは、その道の素人には面白い試みだとは思えるのだが...

「上島おもしろ交流クラブ」

毎月第3水曜・午後7時～9時
場所：せとうち交流館体験交流室
問い合わせ：77-2760 (竹林清志)
77-3072 (平山)
●ミニ講演や時の話題で交流。
お気軽にお立ち寄りください。
3月は15日(水)です。

eメール往来



From: <ABCD@ocv.ne.jp>
 Date: 2006年1月17日 22:29:13:JST
 To: <yuguru@gold.ocn.ne.jp>
 Subject: 本ありがとうございます

「ユニーク美術館・文学館」ありがとうございました。

最近はやっと我が国も経済大国としての奥行きが蓄積が出来はじめたというべきか、各地に一見に値する、否当地に旅行した折には是非覗いてみたい美術館などが増えてきて、こういった企画本や写真雑誌などは皆さんの良いガイドになると思います。尾道の「なかつ美術館」は是非行ってみたいですね。

我々の生活圏である関東地方にも、箱根、軽井沢、蓼科、清里、安曇野といった風光明媚なリゾート地を中心に、個人の作品や収蔵品を展示する美術館、文学館が沢山出来ています。昨年の夏も小海線の甲斐小泉駅の脇にある平山郁夫画伯の「シルクロード美術館」を夫婦で訪れました。

<http://www.silkroad-museum.jp/index.html>

昨年出来た箱根の「ラリック美術館」は当社で施工したので招待券を頂き、あの怪しいまでに美しいトンボの羽を是非肉眼でと思いつつ未だ果たせないでいます。 <http://www.lalique-museum.com/> また美術館の中には、群馬の山奥の東村にある「富弘美術館」のように、建物そのものも是非見てみたいものが沢山あります。 <http://www.tomihiro.jp/info/index02.htm>

ともあれ、これらの美術館がますます充実しながら永続し、我々大人だけでなく全国の子供たちが本物の美しいものを日ごろ目にする事により、再生産による芸術の発展だけでなく、我々の住む町並みが綺麗に豊かになり、何十年か先にはその点では先を行くヨーロッパの町並みに負けない、あるいはそれ以上の景観が作り出せるのではないかと期待する次第です。

そのためにも我々が訪れ、できれば食事なども楽しんで、少しでも運営に協力しなければと感じます。

《上記記事にある「日本全国いちおしユニーク美術館」(なかつ美術館、村上三島記念館、今治タオル美術館の記事は弓削通信の平山久子が共著)の手持ちが若干冊あり。割引価格 ¥2000でお分けできます》

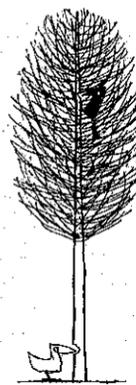
投稿

いかに生きるか いかに死ぬるか

あなたは遺言状を書いてますか?別に言い残すことなんてない?。まだ若いから?。じゃ、あなたは最後にどうやって送ってほしいですか?。

私はどうです。旅に行きたい、美味しいものを食べたい、友人とおしゃべりしたいというふうな事と同じように、自分が望む方法で送ってほしいと。

先日「死への準備教育」というセミナーへ参加してきました。アルフォンス・デーケンズ氏と高木慶子氏の講演でした。死は誰にも



100%やってくる。はずれはないのです。あらためてじっくり考えてみる価値はあると思えますがどうですか?

高木氏は、「従来、生と死に関する事柄は、家庭と社会生活の経験から体得するものであった」と語っておられました。「仮想と現実の区別がつきにくいと思われる人が増えていますが、そんな人を育てたのは誰でしょうか?」

地域の子どもの地域の人が見守ったり叱ったりしていた頃のことをもう一度思い出してみませんか。同時に自分の最期のこと

前田典子

尾道に映画館をつくる会

日程: 2006年3月10日(金)~4月2日(日)
 毎週金・土・日曜日
 場所: 尾道商業会議所記念館2階
 (尾道商店街通り旧商工会議所)
 入場料: 1作品/500円
 時間: 1 16:00~ 2 19:00~ (開演は各上映20分前)
 全作品デジタル上映です。前売り券はございませんが、2月14日より電話予約を承っております。座席数50席の小さな映画館です。当日券もご用意しておりますが、席数に限りがありますので満席になり次第、チケット販売を終了させていただきます。あらかじめご了承ください。(専用の駐車場はございません。お車でお越しの際は、お近くの有料駐車場をご利用下さい)

【電話予約】 10時~16時/070-5522-4958
 16時~22時/090-3630-9282

スタイリッシュサスペンス編

16:00~ 19:00~
 3月24日(金) 1.ある殺し屋 2.狂った果実
 3月25日(土) 1.狂った果実 2.ある殺し屋
 3月26日(日) 1.ある殺し屋 2.狂った果実

青春編

16:00~ 19:00~
 3月31日(金) 1.美しい夏キリシマ 2.キューポラのある街
 4月1日(土) 1.キューポラのある街 2.美しい夏キリシマ
 4月2日(日) 1.美しい夏キリシマ 2.キューポラのある街

おのみち
週末映画館
2006年3月10日(金)~4月2日(日)
毎週金・土・日曜日

Poco a Poco

10周年記念コンサート

日時: 平成18年3月26日(日) 午後2時(開演)
 場所: 尾道市因島市民会館
 入場料: 大人 999円 小・中学生 500円
 主催: 尾道市 上島町 因島ライオンズクラブ 因島せとうち 因島ロータリークラブ 因島青年会 因島音楽協会
 共催: 尾道文化協会
 お問い合わせ: 10周年記念コンサート実行委員会 22-2880

願わくば花の下にて春死なんその如月の望月のころ、と西行の有名な歌があるが、私もその時は桜のころがいいな。いよいよお別れの時、桜の花びらがひらひらと舞い、そのひとひらが棺のうえに舞いおりる。薄い花びらのじゅうたんの上を霊柩車が静かにすすむ。想像しただけでうきうきする。少し前から夫婦で陶芸のまねごとを始めた。そのうちにお気に入りの骨壺をつくりたい。白い釉薬の上に桜の花びらを何枚か散らし、ふたのつまみにはつばみをひとつ。「まあ素敵なお骨壺!。いかにも彼女らしい」とお骨ひろいに集まってくれた友人達が驚いてくれたらしめしめ。幸せいつばいである世に旅立てるとおもう。

相撲好きの脚本家が、「私の最期は土俵の下でひいきの力士の下敷きになって迎えたいわ」と書いていた。なんと確率の低いこと、とあきれていたら、ご主人もやっぱり無理ねとあきらめている。私は四分の一の確率で春の桜に賭ける。

そのときをどう迎えるかは最近いろいろな場面でありあげられている。私も心に体力に余裕のある間にすこしだけまじめに向かい合ってみよう。シミも白髪も受け入れよう。老化を悪あがきせず素直に受け止めていい年の重ね方をしたい。指をもむとホルモンの分泌がよくなり若返るって聞き、せつせともんでる私。これって悪あがきよ、ね。

ご存知、小野小町の作。美しさを鼻にかけた嫌われ女で、とうとう落ちぶれ野垂れ死に、すすき野原でドクロとなり転がっていたらしい。今となつてはうそか真かわからないが...。そのせいかこの歌から私は死を連想する。

願わくば花の下にて春死なんその如月の望月のころ、と西行の有名な歌があるが、私もその時は桜のころがいいな。いよいよお別れの時、桜の花びらがひらひらと舞い、そのひとひらが棺のうえに舞いおりる。薄い花びらのじゅうたんの上を霊柩車が静かにすすむ。想像しただけでうきうきする。少し前から夫婦で陶芸のまねごとを始めた。そのうちにお気に入りの骨壺をつくりたい。白い釉薬の上に桜の花びらを何枚か散らし、ふたのつまみにはつばみをひとつ。「まあ素敵なお骨壺!。いかにも彼女らしい」とお骨ひろいに集まってくれた友人達が驚いてくれたらしめしめ。幸せいつばいである世に旅立てるとおもう。

花の色はうつりにけりな徒らに我が身世にふるながめせし間に

チン説百人一首・18・悪あがきの巻 青木喜代子

弓削通信

第104号

発行者：平山和昭
〒794-2509 愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

密漁抑止の監視、 生け簀魚の盗難防止に 有効か？

★人は石垣、人は城

組織であれ個人であれ事を成すのは人。やれもするとわれわれはそのことを片隅に置いたまま日頃を過ごしてしまふ。その結果視野の狭い状況に陥ることがしばしばあるのではなからうか。

他の人の能力を素直に認められる人には幅広い人脈と成功が約束される。人脈は個人が開拓してゆくが、その個人が優れた組織に属していれば、その組織の得る潜在能力は無限にひろがってゆくことになるだろう。

島に住んでいると島の上まが、活用の仕方がわからないということは、しばしば感じる。そうした中、最近、島はさういふ風にも使える、ということを見せて頂いた。

去る三月二四日、「半潜水型ハイブリッド海上海中監視ブイ」という装置の公開実験が弓削漁協の一室と下弓削港海域を舞台に繰り広げられた。この装置は対テロ対策の一環として海上、海中から重要施設、例えば海岸にある原発などに接近する者を二六〇度の視野で二四時間監視し、状況を電波で基地へ発信する。

開発されたばかりの実験機だから全て研究者の手作りだし、電波の到達距離も短い。実験のねらいは地上実験で達成した電波到達距離の海上での確認と、上下左右前後に動く信号発信装置をきちんと追尾できるか、などだったようだ。二〇代は技術者の端くれだった筆者には懐かしい実験の雰囲気を楽しめた。

「ハイブリッド」とは雑種というふうな意味で、この場合ならさしずめいろいろな機能の既成技術を融合させ新しい能力を発揮させる、とでも言えようか。

この監視ブイの設計方針は許可のいない周波数と出力、省エネルギー、かつそれを自己供給し、価格は軽四自動車以下に抑える、などとされており、実用化された後の活用はアイデア次第といったところか。研究は弓削商船高専商船学科の松下邦幸氏と、東京

弓削港海域で公開実験さる

「ハイブリッド型海上海中監視ブイ」

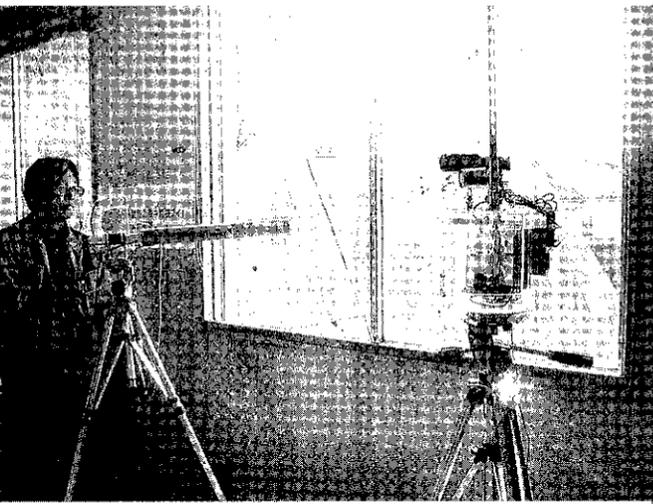
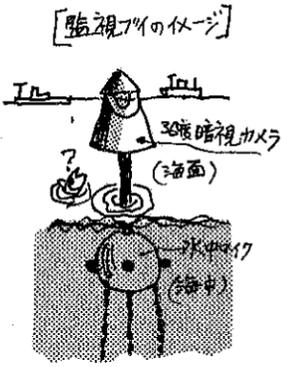
三鷹にある独任法人「海上技術研究所(海技研)」内にある「外部連携研究・開発チーム」によって進められてきたという。

★独任法人も生き抜く為に
平成十七年九月、海技研では「外部連携型研究制度」というのが立ち上げられ「海技研が連携可能なテーマについて、外部機関(大学、民間企業、他の独立行政法人等)と連携して研究を実施することにより、研究活動の一層の充実を図ることを目的としている。連携相手先とは、共同研究契約を結ぶとともに、原則として相手方の研究者を海技研の客員研究員として受け入れる」(同所ホームページより)とされている。

かつて国の機関であった独任法人も生き抜くために種々改革をすすめているらしい。今回のように年度内に一定の成果を出すのはすごいことで、これから種々改良がなされ、近い将来漁協の生け簀監視とか魚島漁協の被っている密漁被害に対する抑止的監視に活用される日もくるのではなからうか。

★縁は奇なもの

実験に駆けつけられた海技研理事・不破健氏の挨拶のなかに、氏は父君の仕事の関係で因島で出生されたのだと伺い何かしらご縁を感じた。ご縁といえは筆



●受信装置を調整する桐谷研究員。右が現場海域での監視データ送信装置。実機ではブイに設置され海上海中データを発信する。

者が若い頃、海技研に隣接する航空技術研究所(航技研)には、勤務していた会社が開発したデジタル温度計の実験に通ったことを思い出した。いまこそ体温計すらデジタルだがそのころのデジタル機器は非常に大掛かりで表示もガチャガチャ騒々しかった。摂氏三〇度を計測するためのそのデジタル温度計は六〇センチ四方ほど。重くて一人では抱えられなかった。その頃の技術でこのような「監視ブイ」をつくらせたら相当な大きさになっていた。

反省多い「議会での決定」

3月定例議会



三月定例議会は当年度の予算審議がメインイベントです。

今年度の上島町一般会計予算はおよそ六四億円。実質的な自主財源は約一三%。残りは借金や基金の取り崩し、ということになります。借金も甲斐性とはいませんが...

こうして国、県への依存体質は連綿とつづき劇的な改善は見込めない中、これからさき百年の計をどう立てるか。行政に関係する人々(議会も含む)の待たなしの課題であるといえましょう。当然この町に住む人々にも自立自存の気概が求められ、等しく意識改革に取り組みねばならないと思えます。

■誰がためにかねはある？

意識改革といつてもその内容は千差万別。今回の場合なら求められるのは政策の見晴らしの良さ、とでもいいたしうか。誰が考えてもすつきりつづなづける施策を推進し官民一体の協力関係を築きあげること。そういう視点からこの三月議会の振り返ると、少なくとも筆者にとっては二件の大きな問題があつたといえます。

一件目は、「ゴミ処理完全有料化」施策に対する町民の不満の沸騰。もう一件は、「公の施設」の指定管理者委託に関する問題です。

1 「ゴミ問題」根本的未解決

ゴミ有料化は昨年一二月議会で関係条例を決定し、本年四月一日から施行となっていました。以後そのことに関する行政側か

たにちがいないと、うたた今昔の感がある。

★袖すりあう以上の「縁」
共に実験にかけつけられた海技研大阪副支所長・山根健次氏、ソフトウエア開発会社の松山アドバンス取締役・山田雅英氏、海技研究所グループ主任研究員・桐谷伸夫氏たちと松下氏とのつながりは、こうした先進技術の実験がこの町でなされたことの意味とあいまって、学校も町も、未来の夢と発展の足がかりにしたいわけにはいかないだろうと感じる。

らの町民に対する説明会で、有料化そのものより現在各家庭に残存する購入、あるいは無料で配布された町指定の「ゴミ袋」の取り扱いに町民の納得が得られず不満が噴出しました。

筆者は一般質問でその問題を取りあげ「町民の完全なる協力を得るためにも当該条例施行を六ヶ月〜一年先送りしたらいかが」との質問を通告しました。

本会議前の全員協議会で岩城地区からも同種の問題提起があり、議長の周旋で議会側代表と理事者側とで協議を行い、施行期日の見直しをしぶる町長を説得し、可燃物排出用既存「ゴミ袋」の無料有効期間を三月月延長することで歩み寄り、本会議での条例改正で落着き。しかし本質的な問題が落着いたわけではありません。一二月議会の条例審議の甘さが反省されます。

2 「公の施設」の管理

「公の施設」の指定管理者制度とは小泉構造改革の「官から民へ」の政策の一環にあると考えます。多くの地方自治体にとっては過去、町おこし、村おこしの目的で作った箱ものが相応の効果を生みだすことが出来ず、その維持管理費が財政を圧迫しています。それらの維持管理に民間活力を導入できるような二三年前に法改正が行われ、経過措置の終わる本年九月二日までに「公の施設」に指定管理者制度を導入するか今までのように直営とするかが迫られます。そして今後新設される「公の施設」は指定管理者制度が前提になります。

■冗談にも出る話

三月議会で上島町の「公の施設」の指定管理者指定条例案が八件上程されました。(裏面27〜28)

明日、四月十六日(日)は
弓削八十八ヶ所
 島四国 お参りしましょう

来月、
 五月の弓削通信は
 お休みします。

第11回 因島自由大学

女優 小山 明子先生

こやまあきこ・20歳のときスカウトされ松竹へ入社。1955年、映画「ママ横を向いて」に出演。1960年、映画監督の大島渚氏と結婚。その後テレビ、舞台で活躍しながら夫の映画製作を支えた。1996年、大島氏が倒れてからは介護に専念。結婚45周年になる。主な著書に「命、輝く！もう一度メガホンを・大島渚を支えた介護の日々」(経済界)、「パパはマイナス50点・介護うつを超えて夫 大島渚を支えた10年」(集英社)など。



お話 二人三脚で乗り越えた介護の日々

日時 2006年6月10日(土) 午後3時~4時30分
 会場 因島芸予文化情報センター
 尾道市因島土生町88-1 TEL 0845-22-8660
 学費 2,000円
 問い合わせ: 因島22-5792、FAX 22-6716(永宗)
 弓削通信平山(弓削77-3072) FAX 共通

「上島おもしろ交流クラブ」

毎月第3水曜・午後7時~9時
 場所: せとうち交流館体験交流室
 問い合わせ: 77-2760 (竹林清志)
 77-3072 (平山)
 ●ミニ講演や時の話題で交流。
 お気軽にお立ち寄りください。
 4月は19日(水)です。

2 「公の施設」の指定管理者公募にみる「町の品格」

(表からのつづき)

昨年一二月議会での「上島町の公の施設の指定管理者指定の手続き等に関する条例」が可決されて初めての適用です。公募が原則ですが町長が公募によらず指定管理者の候補者を選定するなどのために五項目の条件も条例で定めています。口の悪い人から「町を指定管理者預けられないものか」の冗談を聞くとなかなか笑えない物があります。

■フェアとは?

本年一月四日付で上島町は公の施設の指定管理者公募を発表し、書類は各家庭にも配布されました。募集期間は一八年一月四日から一月二〇日。

対象施設は「弓削ロッジ」「弓削トピア」「豊島」「ミニユナイセンター」「魚島観光センター」「生名スポーツ合宿村公園」「岩城津波」「ミニユナイランド」「岩城観光センター」「(岩城)農水産物処理加工施設」でした。

これら施設はこれまで管理委託に付されており応募者には町長が社長を務める第三セクター(株)いわき物産センター、(株)生名スポーツも含まれています。

公募とは極論すれば世界に門戸を開くこと。応募者には公平な機会提供がルールですが条件的に競争できない環境を提出してはいけません。町内事情を知り

ていたとしてもこの公募期間の短さや町長が社長をしている第三セクターの応募などは八十八ヶ所から答が決まっています。世間を馬鹿にしていられると聞かれてもしかたない。しかもさうでもないのに公募するからには全国に通用する取り扱いが当然なのだという「公の視点」がすつぽりと抜け落ちたこと都合主義は恥ずかしい。まあ言ってもしかたないのかな?

とまれ結果は豊島「ミニユナイセンター」以外の施設では、今までの管理委託先の団体が応募し無競争で候補者となりました。

ところが豊島「ミニユナイセンター」には現行(当時)だった委託業者(有)「住力商事」に加え(株)「風の音舎」という新しい会社の応募がありました。そして手続き条例で定めた選定審議会(委員は全員町職員)で選定基準にもとづき点数をつけ、厳正に審査した結果(株)「風の音舎」が第一位。平均点七二・四点、(有)「住力商事」が次いで平均点四六・六点という結果となり、それが町長に答申されました。町長の決定は(有)「住力商事」を管理者候補にする、というものでした。

■大丈夫?町の品格

首位を退け次位を採用する理由はいろいろ書かれておりましたが、筆者の見る限りどれも説得

性のないものばかりでした。公募をし、かつ自分たちで決められた選定基準をクリアし点数をつけたら一位となつたにもかかわらず、二五・八ポイントも差のある次位業者を候補者に決めるというのには世間では通用しない不思議な論理です。相撲でいえば行事差し違い、あるいは裏口入学に等しい。

議員平山としてはこの決定には物言いをしつけざるを得ず、前記の理由で反対討論をし採決した結果、町長の決定に反対の議員は三名。つまり賛成多数で議案は可決されました。(有)「住力商事」が豊島「ミニユナイセンター」の指定管理者候補となることが議会で決まりました。

■崖っぷちの議会

議会の役目の一つに行政庁のやることの手ツクといふことがあります。町長のこの不透明な手続きにマツタをかけられない議会とは何を意味するのでしょうか?

向後上島町は公平な判定をさせない自治体として名譽の汚名が流布しないと誰が言えるのか。昨今「国家の品格」という本がベストセラーらしい。ミラーです。筆者也購読しましたが、まさに「町の品格」も問われていると感ずることも多いです。

ノイズ

朝日新聞四月九日「声」に「若い世代」という特集があり小学生が投稿していた。「大丈夫?」がうれしい言葉、というタイトルで、クラスアンケートをした結果のことが話題だった。これまで友達に言われてうれしかった言葉を調べる「大丈夫」が一番多く、自分自身も「大丈夫?」と心配してくれたり「大丈夫!」励まされるとうれしい。

昨年結婚した黒田清子さん。皇后は「大丈夫よ」と励まし続けた。弓削小の今年の入学者は女子七名、男子五名。緊張の面持ちの彼らを見ていると三十代から見守られていなければ不案なのならこの子たちは大丈夫なのだろうかと不案になる。

中田ちづさ
 わじりパン (7)

いろんな所でいろんな仕事をしてるってと美にいろんな人もいるもんでして...。今日は「表面上いい子ちゃん」つてのをひら。上司、上役に対しては必ず「ハイハイ」で聞いてる「イエスマン」て奴のこと。で、その人、同僚とか下に対して何も仕掛けてくれないやいのだけども、この手合いは必ず同僚や下に対しては、思いつきり不平不満をいまくる...。おいおい、そんなに顔を真っ赤にして不平を言うならちゃんと言おうべき時に言えよお...。って思っただけだよ、絶対にそれはない。

問題のあるソノトキ、聞いても聞かぬソノトキ、言うべきソノトキ、そのトキトキをムダにハココ過して、あとであくでもない、こくでもない、どうだった、どうだった!と。上に対してモノ言うクチを持つてないばかりか、きつてそのような場では、裏で言ってること十分の一も言わない臆病者だったりするんですよ。これが、で、そのことに自分で気がついてるのかどうか。



人が発言しても、同意を求めず、意見を求めず、なんでも反応せずにおいて、陰であれこれ言いきくって、本当に情けない、面倒な奴。こんな人とはホンネで話ができませぬ。でも、上っ面だけでも付き合わないといけないのが「ザ・社会」ですよ。

この手の人に付き合うには一緒にいって「いじめっ子」のように仲間になると楽チン。仲間になって共有の「悪口、陰口」を言っているあいだは自分に攻撃の矛先はきませんから。そうそう、こういうこともある。彼ら、彼女らのホンネの部分を取り成り代わって発言しても、表だっては、決して褒めても、喜んでも、同意もしてもらえません。ケド、裏で「そっかーそっかー」と過激に同意してもらってもねえ...。

私も人の「コト」なんか言えな義理じゃないけど、こんなことが表社会でまかり通ると、実に息苦しく、生き苦しい社会になっていくのよ...。

弓削通信

第105号

発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

現実を直視しよう

地方の自主性を重んじる地方自治を推進すると言いつつ、国は「肝心の財源移譲に関してはなかなかしつと手放さない。そうしたなか上島町では、岩城地区は造船振興と農業、生名はスポーツ施設と特別養護老人ホーム、弓削は高等教育、魚島では漁業振興などと、旧町村時代に取組んで来たことを重点推進項目としている。

全国おおかたの市町村合併が成ったが財政事情はかえって悪くなっている。わが町も合併後十年の特例措置が終われば、このかたのまますま延びていくのかどうか非常にあやしい。岩城の農業も後継者不足で暗

お座なりであることを済ませてはいないだろうか。一つの例で見ても

先だって新たに立ち上がった「上島町文化協会」の設立総会をゲストとして見聞できる機会があった。ある会員から「従来の各地区組織のうえに大括弧でくくっただけの、言わば屋上屋のごときカタチで真の統合的な文化活動が出来るのか」という根源的な質問が出た。

なるほど言われればそうだ。総会に至るまでに「協会のありかた」を、会員相互で熱く討議していれば、このように「今さら」な問いかけは出てこなかったであろう。一事が万事という。小さなことはできずとも大きなことはできるか。そんなことはあり得ない。

町の存在感を高める

言いつつと言いつつ

雲がたれかかっている。造船振興も企業の才覚と景気頼みだし、生名のスポーツ、レクリエーションも、今ある施設でどう黒字化がはかれるのか。特別養護老人ホーム新築も、町内の需要をまかなう(現在の計画ではそれすら十分でないが)視占だけでいいのか。

弓削での高等教育環境も悲観的ならざるを得ない。県立高校の定員割れは改善の見込みがないし、商船高専も現実問題として先行きは暗いのではないかと。

早く町の未来像を

まず事実と正直に向き合ひ、ではどうするかということ、この町に関わっているすべての人が、一刻も早く、それぞれの縄張りを超え本気で智慧を出し合うことが求められる。

越智郡上島町の次のステップとどうか具体的な位置付けを早く決定し、そのうえで末端の町である上島町がどれだけの魅力を構築でき、次の合併劇で先方から「お荷物」ではなく「活用できる先端域」として囁まされるかということに尽きる。相手が愛媛県側だろうか、広島県側だろうかおなじみだ。

まだおんぶにだっか?

私たち町民は町の未来について

高等教育に関していえば、弓削島に高専が存在するのは、貧しい郷土を憂えた先人の遺徳である。だからこの学校の現在と未来は学校だけの問題ではない。「この学校は何のために」この地に生まれたのか。改めて高専は建学の精神に立ちもどり、専門職大学院開設とか、同類校に無い質の向上を、他校に先駆けなければ、いかに長い伝統を誇るにせよ、ど全国の志願者の気を引きつけることは難しかろう。学校の枠内の壁でしか物事を考えられず、経営者への地への帰属意識が薄いとすれば非常に残念、というしかない。

弓削商船高専は学校ではあるが「独立行政法人」という民営事業。「優秀な人材」という高価値の商品を生み出す事業なのだ。当然のことながら商の才覚だつて要るだろう。

もちろん町行政当局もかねてより「国立校」という垣根に自らも阻まれ、学校とは運命共同体との自覚も薄く腫れ物扱いにしてきたうらみがある。

安心感やり甲斐・夢

特別養護老人ホームの入所者は「重度」中心になりつつある。寝

すぐやってくる「合併10年後」

たぎりの高齢者ばかりになるとお世話する人たちの士気に影響はてないだろうか。

ホーム入所を希望するもいつ実現するかかわらず、待てない人は町外にそれを求める。介護保険金は町外に流出する。自分の町で保険料を払い、自分の町でサービスを受ける。それが理想だろう。「地域密着型小規模多機能サービス拠点」と呼ばれる民間施設での介護にもと眼を向けたらどうだろう。弓削にはすでに「ふくふくの会」という実践がある。

こうした拠点が町内に散在すれば、時間や資格のある人の働く機会や老後の安心感は増す筈。

魚島をはじめとする漁業文化はどつたえていくのか。あるいは生き甲斐につながるのか。あるいは「観光」でいくにしろ「スローライフ」の拠点になるにしろ、かかわる人々の極め付きの意識変革が必要となる。

農業は専業農家としていかに自立するか。食料自給率アップの取り組みを消費者と共に推進し、町の自給自足を目指す。消費者が農家を支える意識。まさに「町」

農政の失敗を繕うモデルとなり得る。

造船振興はやつかいたが誇りの持てる職能集団が存続しなければ歴史あるモノ作りは滅ぶ。いっぽう企業の競争力アップが低賃金を手段として計られるなら、この地でその職業に就き技能者になろうとする国産ヤングは多くはのぞめない。出稼ぎに求めている海外労働者が日本人の職を奪うとの逆立ちした議論もあるが、日本では伝統的に技能者の社会的評価が低いことが主原因。それを立て直す開明的な事業展開がのぞまれる。

小さな機会も粗末にしない

そろそろ尾道市との交流もおろそかにしてはなるまい。

過日、隣島の因島で麻生イト(明治九年尾道十四日町に生まれ、昭和三十一年没。因島造船業の発展や社会活動に寄与した)の生誕百三十年記念イベントがあった。

麻生イトは生名島と縁が深い。つまりいまは上島町とも縁が深くなった。亀田尾道市長は若い頃学徒動員で日立造船で働き、生名島にあった寄宿舎で麻生イトの世話になったと、式典に出席されていた。

近未来にむけ、わが町は小さな機会も粗末にせず尾道市とよしみを通じらるべき。町幹部にどういつ必死さが見えないのが惜しまれる。それもこれも町の未来像を持ち得ないところからきているのではなからうか。

写真説明

「麻生イト生誕百三十年記念」として上島町生名在住、岡山商科大学ならびに弓削商船高専名誉教授の村上貢氏は「女傑一代・麻生イトの生涯」を執筆し、記念事業世話人会が発行した。表紙絵・中浦正直氏、題字は篠塚不慚氏。記念展で観覧者に説明をする著者。



●5月5日「おやくっさん」の折、募金箱を置かせてもらいました。集まった13,107円のカンパは、ユニセフへ送らせていただきました。ご協力ありがとうございました。(久司浦・前田)

ノイズ ★この春、深坂池にカワセミが営巣した。ペアの発見、求愛給餌から交尾へと弓削野鳥の会メンバーが折々観察・撮影。巣穴も発見し5月には両親が餌を運ぶのを見て孵化しているのを確信。無事な巣立ちが楽しみな毎日★巣立も近いと思われた5月23日、巣穴に蛇が侵入しヒナをくわえて出て来たのをメンバーが目撃、自然の厳しさを目の当たりにした。全滅かと落胆していたところ翌日早朝、雌雄の親鳥が何度も餌を運んでいる。そしてついに5月30日、巣立した1羽を確認。3日後、計2羽の巣立を確認。やっとなつろぎました。★もともと佐島の竹浦池が繁殖地。環境が変わった?

しまなみ交流館 【映画情報】
シアトル (0848) 25-4073

| | | |
|--|---|---|
| <p>6月17日(土)</p> <p>おのみち市民大学 親子講座 映画上映「ゴール! ~STEP1 イングランド・プレ ミアリーグの誓い~」</p> <p>尾道市教育委員会 生涯学習課 人づくり推進係 (0848) 20-7444</p> | <p>1回目 開場 9:30 開演 10:00 終演 12:00</p> <p>2回目 開場 12:00 開演 12:30 終演 14:30</p> <p>3回目 開場 14:30 開演 15:00 終演 17:00</p> | <p>券 1,800円 おとも 1,000円 特別割引券 おとも 1,500円 おとも 800円 *おともは高校生 以上です。 *おともは3歳 以上です。</p> |
| <p>6月25日(土)</p> <p>第8回尾道に映画館をつくる会 自主上映会 「いつか読書する日」</p> <p>監督:緒方 明 田中裕子 岸部一徳 仁科亜季子</p> <p>尾道に映画館をつくる会 事務所 (070) 5522-4958</p> | <p>1回目 開場 10:10 開演 10:30 終演 12:35</p> <p>2回目 開場 12:40 開演 13:00 終演 15:05</p> <p>3回目 開場 15:10 開演 15:30 終演 17:35</p> | <p>前売り 1,000円 当日 1,500円</p> |



「上島おもしろ交流クラブ」ご案内

時 : 毎月第3水曜日、午後7時~9時
場所 : せとうち交流館体験交流室
毎回会員が話題を持ち寄り話し合います。話題はいろいろあります。通りすがりにでもお立ち寄りください。



ミニミニ講演会も計画しています。
問い合わせ・連絡先 0897-77-2760 座長(竹林)
77-3072 又は 050-3378-0988(lp 電話) (平山)

感謝状

愛媛新聞 エリアサービス弓削
前所長 古江武馬 殿

あなたは昭和五十三年より平成十八年五月、九十一歳に至るまでの二十八年間、当地域に於て新聞配達業務に精励され「九十歳現役」の記録を樹立されましたこと誠に賞賛に値するところであり、かつその内のこの十五年間、わが「弓削通信」の配布にもお骨折りを頂きました。よって茲に紙上を借りて感謝の意を表します。

平成十八年六月吉日
弓削通信

定年後、地域にニュースを届けて28年! 古江武馬さん



愛用の自転車と共に
ダンディな武馬さん

上高町下弓削の古江武馬さん(九十一歳)は、大正四年(1915)カナダで生まれた。材木関係の仕事で働いていた父親が彼の地で亡くなられたので、四歳の折、二歳年長の兄と共に母親に連れられ弓削島・太田の地に帰郷されたのだそうだ。

先の戦争で招集され満州へ出征したとき、武馬さんにはすでに妻子がいた。満州で敗戦をむかえるも捕虜となり、炭坑での強制労働に従事。生き延びて昭和二十二年(1947)引き揚げ船で帰国

できた。

帰国当時の食糧難、就職難の厳しい時代を、当地での行商や石山(石灰石採掘)で働いてしのぎ同二十三年頃、因島・日立造船に職を得ることができた。以来五十八歳の定年まで勤務することとなる。

まさに昭和の激動期、その山あり谷ありの全てを体験し、生き抜いてこられた。

「引揚者に弓削の人はみな親切だった」武馬さんはそう述懐する。

定年後は奥様といっしょに愛媛新聞配達業務を引き受けられ、今日にいたるまで、照る日、曇る日、降る日、荒れる日、欠かすことなく地域の人々にニュース紙を配達しつづけた。二十年ほど前、最愛の伴侶を亡くされてからも、ずっと一人でその仕事を継続された。

人生には病気、その他不慮の出来事はつきもの。武馬さんも例外ではない。その都度、近くに住む息子さんたち夫婦に応援してもらいながら、毎朝四時に港で新聞船を迎え続けた。

二年ほど前、配達途中の鎌田の坂で自転車ごと転倒。大けがを負うも、自力でまた自転車に打ち乗り、町内の畑医院にかけこむ。精密検査が必用との医師のすすめですぐさま救急艇にて隣島、因島の病院へ搬送され、そこ

で二週間の入院。

「ほれこに...」左目のすぐ下に三センチ余の傷跡がある。

戦争の時代をかくくつた人の見せる「肉体を気力でひっぱる」エピソードである。

武馬さんには二人の姉が居てその内の一人は因島の重井(しげい)に健在だという。百歳近い。

「以前は弓削へ墓参りに子どもが連れて来ていたもんだが、このころはもつとんだけん...」

武馬さんはどうも述懐する。

「兄は八十年ほど先で先に死んでしもつたが、うちはまあ長生きの家系かな」

「早期の新聞配達には気持ちがあえ。長生きできたのも自転車での配達のためだとも思う」

そんなタフな武馬さんだが、さすがに先の大怪我で限界を感じられたのか、

「耳や目も不自由になった。子どもからも仕事を辞めようという再々言われるのでやと止める気になつた」

「骨折や怪我で何度か入院したもんだが、おおもね健康でやつてこられた。今もなるべく子どもには頼らず食事は店で売っている弁当で済ませます」

「このごろはよく畑医院に通うから健康診断には行かん。だがこれからは人の世話になるようになるつう...」

仕事を退いて少し寂しげの武馬さん。だが、いつぼうでは責任を全うできたのびやか雰囲気漂わせていて、軽やかにいろいろ話を聞かせてくれた。

「元気で長生き、百歳長寿の町づくり」

かねてよりこの町の目標だがその実現に欠かせぬものは何か。

いま見事なお手本として古江武馬さんがおられる。

武馬さん、おつかれさまでした! これからもさらに人生をお楽しみされたいことを祈ります。

我家の軒下にさがる「のぎ」のぶを見るこの歌を思い出す。

初夏から秋まで青々とした葉をゆらし、見た目も涼しげでいい。しのぶの葉のさわやかさは想像がつかない「乱れる」ということば。それに、「しのぶもぢずり」って何のことだろう。以前から気になっていた。のでこの際珍しく調べてみた。

すると「しのぶ草」(ウラボシ科の葉のようにギザギザした切り込みのある草)の葉をすりつけて染めた布のことだ。「もぢずり」の「もぢ」は「文字」のことではなく、「よじり、ねじれる」という意味らしい。なるほど、あの薄い葉っぱを染め付けるとなるとたしかによじれ乱れるだろうな。で、何が乱れるんだ? 女の長い黒髪か?

この歌を詠んだのは光源氏のモデルとされる男で富も地位も欲しいままの貴族。宇治の平等院は彼の別邸だったと言う。平成のヒルズ族もまう青である。いったいそんな彼が情熱的なこの歌を誰におくったのか。地位や金を目当てにすり寄ってくる女ではなく、意外にも純粋な小娘だったかも知れないな。もしこの恋が成就し、歳の離れたいい男がポツクリ逝つたら、あの平等院はどうなつていたんだろう。あの頃には財産贈与などあったんだろうか? いつものようにオバハンの想像は果てもなく続く。

昨年の今頃、そろそろアレをと実家の父に頼みいった。「今年もアレをつくってー」「アレ?」「うん、ひろみ」「ひろみ?」「そう、軒下にぶらさげる...」「ああ、しのぶのことか」「.....」

アキラの「昔の名前で...」じゃないけど、源氏名のつながりのひどい勘違い(汗)。

梅雨の晴れ間の風に、その葉がゆれている。

みちのこの「しのぶもぢずり」たれ故に「乱れそめにし」われならなくに

チン説百人一首・19
乱れそめるの巻
青木喜代子

初夏から秋まで青々とした葉をゆらし、見た目も涼しげでいい。しのぶの葉のさわやかさは想像がつかない「乱れる」ということば。それに、「しのぶもぢずり」って何のことだろう。以前から気になっていた。のでこの際珍しく調べてみた。

すると「しのぶ草」(ウラボシ科の葉のようにギザギザした切り込みのある草)の葉をすりつけて染めた布のことだ。「もぢずり」の「もぢ」は「文字」のことではなく、「よじり、ねじれる」という意味らしい。なるほど、あの薄い葉っぱを染め付けるとなるとたしかによじれ乱れるだろうな。で、何が乱れるんだ? 女の長い黒髪か?

この歌を詠んだのは光源氏のモデルとされる男で富も地位も欲しいままの貴族。宇治の平等院は彼の別邸だったと言う。平成のヒルズ族もまう青である。いったいそんな彼が情熱的なこの歌を誰におくったのか。地位や金を目当てにすり寄ってくる女ではなく、意外にも純粋な小娘だったかも知れないな。もしこの恋が成就し、歳の離れたいい男がポツクリ逝つたら、あの平等院はどうなつていたんだろう。あの頃には財産贈与などあったんだろうか? いつものようにオバハンの想像は果てもなく続く。

昨年の今頃、そろそろアレをと実家の父に頼みいった。「今年もアレをつくってー」「アレ?」「うん、ひろみ」「ひろみ?」「そう、軒下にぶらさげる...」「ああ、しのぶのことか」「.....」

アキラの「昔の名前で...」じゃないけど、源氏名のつながりのひどい勘違い(汗)。

梅雨の晴れ間の風に、その葉がゆれている。

弓削通信

第106号
発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

世を挙げてインターネットの時代だといわれる。国をはじめ各自治体も、まずインターネットのウエブ・サイト(ホームページ)に行政情報を載せる。マスコミ報道では「誰それがホームページでコメントした」など事後追認で言う。そのうちプレス発表なども直接記者に向き合わず「この件に関しホームページに発表しています」と張り紙一枚しておけばすむようになるのだろうか？

時代とよもに
進まざるを得ない。



インターネットの時代!

●ファンメールの受け付けを再開いたしました》7月3日、サッカーの日本代表・中田英寿選手の現役引退宣言の載ったホームページ。

★弓削・松原海水浴場のアオバズクの巣立の時期が来た。ことし環境省選定の「快水浴場百選」に愛媛県で唯一選ばれた松原海水浴場(法王ヶ原)だが前途はなかなか厳しいものがある。後を絶たない松枯れとゴミの漂着、それに松林の維持管理。松林は県から名勝指定されているが宮の私有地。公費を突っ込むにも十分というわけにはいかない。松葉が家庭燃料として有用だった頃は常に地域住民によって採取されていて特に管理目的で税投入の必要もなかった。現在は松葉の処理に苦悩している。

昨今は自然を楽しもうとする者は自動車で乗り付けたがる。シーズン中は松の保護料として1台千円を徴収をするそうだが入れさせないのがベスト。百選指定は嬉しいがこれから先の管理の在り方はじっくり考えたほうがいい。



★7月2日、岩城で開かれた「上島町商工会」発会記念式で弓削商船高専の事務部長が、学校と地域を結ぶ場としての「弓削商船高専技術振興会」について講演された。団体や個人会員で構成されるこの会に多くの町民有志が入会し、技術振興のみならず学校と町の、将来長きにわたる存続にむけて積極的に活動するならば素晴らしい提案だ。この町に商船高専が必要と考える有志はぜひ入会を検討することをおすすめしたい。

★パソコン保有率
国民の何パーセントがパソコンを所有しインターネットを活用しているのか(あるいはケータイ電話で)。それらの統計の意味するところを読み取れば、上島町にすむ我々はどういう状況あるのかが判断できるかもしれない。

インターネットで「検索」と称される作業をしてみよう。「パソコン保有率」という語句を検索窓口に打ち込む。瞬時に五百件近い記事のタイトルと概要が表示される。「パソコン」と「保有率」とのあいだに一字分のスペースを打ち込んで再度検索にかけると五万九千数百件の見出しと記事概要が出てくる。記事の中の一つには、《平成十五年には日本の七十九%弱の所帯がパソコンを所有し、十三歳から四十九歳までの九十%がインターネットを使っている、その理由の一つとしてパソコンの値段が下がったからだ》、などと分析する。

★ない袖は振れず
では上島町における住民のパソコン保有率は？
残念ながらそういうデータは行政も保有していないのでいくら検索にかけても出てこない。
文字や絵で書かれた情報ならインターネット上にあるその語句を含むあらゆる情報に辿

り着ける仕掛けになっているが、当然ながらデータを、どこかで誰かがインターネットに乗せなければ「ト」ははじまらない。
世の中活字離れといわれるがインターネットでは読む情報が殆ど。これまた活字なくしてははじまらないのが実情だ。活字のある場所が変化したのだ。
データも間違っていないとはいえない。受ける側からすればいかに信頼に足るものを選び出すか、のほうがかつかいなる問題となる。商品、事業、あるいは統計、知識一般・ネット上の情報量は膨大という言葉では納まりきれない。そして刻々とそれらが更新されている。
その膨大な情報を自動的に再編成し、いつでもどこでも無料で必要な知識に辿り着けるようにしようとしている技術集団がある。アメリカのシリコンバレーにある「グーグル」という会社だ。
こうしてみるとインターネットは「正邪、清濁あわせれた知識の共有の場」だともいえるだろう。そこが知識の共有の場ならそれを伝達(教える)する場が同じ土俵にあれば学校は要ら

中田選手の『ホームページ』

★性善説そキーワード？
何十億円もかけて開発したソフトウェアを無料で使わせ、その結果からくる未来の事態にビジネスチャンスを見いだそうとするのが当たり前のことになるかもしれない。もちろん仕掛ける側は採算が合うからだ。
先のワールドカップ、ジーコジャパンの中田選手が現役引退を宣言した。かれはインターネット上の自分のホームページで世界中のファンと発信している引退宣言はまずホームページに掲載された。隣近所とはおつきあい無くとも、世界中にお友達

なくなるかもしれない。パソコンを持ちインターネットに接続できる環境があれば「学校」と呼ばれる現場」に出て行かなくても済む？。もちろん一つの極端な話だが。

★ケチを笑い飛ばす共有
世界トップクラスの米国マサチューセッツ工科大学では、二千科目もある講義内容の全てをインターネット上で無償公開しようという計画を実施している。体面を重視するケチな事なかれ主義者が舵を握っている学校ならとてもついていけない発想だろう。
『ウィキペディア』というネット上でだれでもが自由に編集(書き込み)してよいとされる百科事典の例もある。

書籍型百科事典の項目はせいぜい十万。ネット型「ウィキペディア」では百万項目(英語)以上あり、十数カ国語に対応されている。対応言語は今後も増えるだろう。ちなみに日本語版は二十数万項目。日々それが進化し深化している。
もはや百科事典執筆には知識の外には肩書きや権威は不要になるのか？。

★貧者の力を見せしめる
最近、電気の未整備の地域の子どもでもインターネットを楽しめるよう発電用のグルグル手回しハンドルのついた百ドルパソコンが、先に述べたマサチューセッツ工科大とグーグルで共同開発された。この秋にも国連機関の支援で各国に配布されると言う。こうしてみるとやがては圧倒的多数にのぼる我を含む世界中の貧乏人の経済力こそが世を動かすべく物を言う日が来るのであろうか？。

■六月定例議会

六月定例議会のメインテーマは補正予算の審議です。今定例会で新たに発生した事業の主なもの、弓削地区大谷に新築予定のゴミ焼却施設「上島クリーンセンター」関係(二億円弱)。「ため池等整備事業計画概要書作成および地質調査費」(六九二万円。今回対象としている池は佐島・竹の浦池、岩城・池ノ谷池。いずれも堰堤決壊の危険性あり) 子育て支援の一環として「妊婦等通院助成金」(一一〇万円。これは上島町子育て支援協議会からの提言をもとに予算化されたもので、出産および不妊治療妊婦への交通費の半分を助成する。ただし一回分上限五千円)

■大切な問題意識の共有

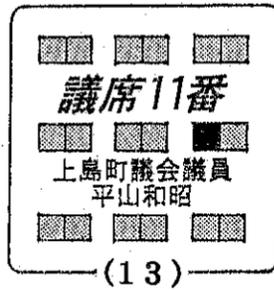
出産にしろ不妊治療にしろ、プライベートに関わることで、出生率を上げるためには実はもつと根本的な子育て支援が必要ではないかと思えます。「子育て支援協議会」がどれだけ子育て中の親、若しくは子どもを産もうとして親たちの本音の意見、希望を調査したのか詳細は公表されていないですが、例えば因島から上島町に転居したほうが魅力的な子育てが出来ると言われるように歩を進めていきたいと思います。行政に提言する団体は自分たちの調査、議論の内容を公表することで問題点を町民が共有できることにもつと眼を向けて欲しいと思えます。

■行政との懇談会

新町になって第一回目的「町内各地区町づくり懇談会」は六月初旬から巡回開催中です。

町民の積極的参加

町長はじめ全担当課長と住民が直接意見を交換し要望や説明をうける数少ない機会です。町民の皆さんはそれを有効に活用されておられるでしょうか? 出る杭(釘)は打たれるとはかり公の場で意見を述べたがりませんがそれは間違い。出る杭にしる釘にする問題の在処を示しているわけです。行政がそういうサインを有り難がらないようなら懇談会の意味がありません。意見を述べる町民がたくさんいてなおかつそのような色々な機会に人々が積極的に参加してこそ町づくりは本当の歩みを踏み出せるのだと思えます。



県道関係工事の早期完成を 防災にはきめ細かい情報を

■議員だつて公僕

議会議員は選挙で選ばれる町民の代表ですから町民のために働くのはあたりまえ。構えて特権を意味するものではありません。「議会議員」を特別扱いする風潮は根強いですが、それをそれをすっぱりと捨て去る時期です。議員の面目とは、真つ当な見識を得るために自主的に研鑽する以外にありませんし、そのうえで有権者の側に、議員を働かせる意志や必要性を持ち合わせないなら、議員は尊ばれる必要もありません。ましてや働かない議員などとは非難するのはこれまた筋が違つていります。

町の行く末を占う

町民の代表ですから町民のために働くのはあたりまえ。構えて特権を意味するものではありません。「議会議員」を特別扱いする風潮は根強いですが、それをそれをすっぱりと捨て去る時期です。議員の面目とは、真つ当な見識を得るために自主的に研鑽する以外にありませんし、そのうえで有権者の側に、議員を働かせる意志や必要性を持ち合わせないなら、議員は尊ばれる必要もありません。ましてや働かない議員などとは非難するのはこれまた筋が違つていります。

■明治はまだまだ近場に

かなしいことに国政レベルでも県政レベルでも、そして市政町政レベルでも明治時代の意識が多くの国民に残っているように見受けられます。「町づくり懇談会」のような場でどれだけ町民が意欲的に発言できるか。町の行く末を占う筈竹のように思えて仕方ありません。

■定例議会での一般質問

今定例議会での一般質問は九名が立ちました。平山は町職員の行政能力をさらに高めてもらいたいと二本の質問をしました。一本目は、現在進行中の県道弓削島循環線道路改築工事の早期完成を計るため、職員は県工事に關し当事者意識、受益者意識にたち関係機関(国、県、商船高専等)と関係町民の間を精力的に調整し工事の早期完成をめざせ。二本目は、防災に關してで、ちよつとした地震等があった際でもそれを町民への情報伝達、情報収集の訓練の機会としてもちろえ、日頃からきめ細かい対応を心がけ、防災無線の放送内容などトレーニングすることで、いざというときの十分な気配り、目配りを目指すべきではないか、という主旨の質問でした。

当たり前すぎる内容ですがそれらはまだ不十分だと感じています。理事者側からは鋭意努力する旨の答弁をうけました。それらが実行されるかどうかを引き続き見守っていくために皆さんからの意見、情報を歓迎いたします。



中田ちぐさ

ほんとうにこんな人がいるんだ!と、思わず笑ってしまいました...

「一生懸命してたら、子どもにメをかけてくれるし...」 「ナンかい役があつたら、絶対うちの子をお願いします!って言いますよ!」 「先生のことをよく知れるし、先生と仲良くなれたら、それなりに子どもにも返るものがある!」 うーん...

聞いていて「それはなかつた!」って思ったが当人は恩恵を受けていると信じているみたい。 さにあらぬかそれを聞いたトナリの方は「それやったら、私も頑張らないかまいか?」などと一言して「〇〇の時に一番前でお遊戯してた!」 「〇〇のええ役をもらって!」 おしまいは、 「かっけい!」も一等賞になるのは親がPTA会長してるから!とな

「〇〇のええ役をもらって!」 おしまいは、 「かっけい!」も一等賞になるのは親がPTA会長してるから!とな

どと言われる。

別の人はPTA活動する「とで子どもの居る場所へ自分もいられる、とか、子どもの普段の様子を人よりも多く見ることができるとか、子どもが喜ぶとか、とか。ん。

なんでもありなのか!。じゃ活動に参加してくれるなら実際に特権行使してさえないけりや、まあええとするか。

先生方も、こんな恩恵期待組を相手にするとなると大変やろうなあ。でもって全くムシするわけにもいかんたつし...。 PTA(それも上層部)をする方には

子どもの通知表の〇を1つ多くします。〇ばかりの人は〇を増やします、とかやると、教育系の方々はこつて頑張つてPTA活動するんだつうなあ。 「内申書に響きまっす!」なんてなると、みんな目の色変えたすだろうな。

しまなみ交流館 シェルネ (0848) 25-4073
おのみち市民大学/親子講座 -映画上映- 「カーズ」(日本語版)
今度の奇跡は、「クルマの世界」に起こります。
日時 7月17日(祝)
第1回 10:30~12:30
第2回 13:00~15:00
第3回 15:30~17:30
場所 しまなみ交流館(テアトロ シェルネ)ホール
定員 各回690人
入場料 当日:大人1,800円
こども(3歳以上)1,000円
特別割引券ご利用の場合
当日:大人1,500円
こども(3歳以上)800円
特別割引券配布場所(6月下旬から)市役所1階ロビー、各支所、しまなみ交流館観光情報コーナー、生涯学習課、中央公民館、おのみち生涯学習センターほか
問い合わせ先 生涯学習課人づくり推進係(0848207444)

7月 29(土) 30(日)
松平 健
ブルーノガンツ
前売り1,300円
藤本興業(有) (084)924-1820
1回目 開場10:00 開演10:30 終演12:45
2回目 開場13:30 開演14:00 終演16:15
*30日のみ 3回上映です
3回目 開場16:30 開演17:00 終演19:15
日本ドイツ国境を越えた 真実の友がそこにあった
第九の歌が聞こえる 軍人は八間へ帰る
をせははドイツを 追いついたのか、

「上島おもしろ交流クラブ」ご案内
時:毎月第3水曜日、午後7時~9時
場所:せとうち交流館体験交流室
問い合わせ・連絡先 0897-77-2760 座長(竹林) 77-3072 又は 050-3378-0988(ip電話)(平山)

弓削通信

第107号

発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

具体的な目標をたて 目に見える行政改革に 取り組もう

●合併をしない町宣言

平成十三年、「合併をしない矢祭町宣言」で話題を集めた福島県東白川郡の矢祭町の広報誌をインターネットで読むことが出来ます。

合併しないでやっていくための行政改革開始から三年、今どういう取り組みをしているのかと関心があつたからです。

合併はしたものの先行き決して明るくない感じの我が上島町の住民は、町の行く末を行政庁職員や町の三役、四役におまかせで済ませていいのだろうか？という思いもあります。

同じような合併しない宣言をした新潟県加茂市長が、平成十四年、市民に配布した「加茂市が県央東部合併研究会に加わらない理由」という冊子のインターネット版もみる事が出来ます。その中で加茂市長は小泉行政改革を厳しく批判しているのですが、それが当っているかどうかは、さりとて合併した上島町の今日を付き合わせてみれば色々面白いものがあります。紙面の都合でその内容をここで紹介することは出来ませんが、加茂市長の危惧の殆どは当てている様子なのをみるにつけ、我々の町の行く末に住民一般が無関心でいてはそもそも合併した意

勝手連、勝手審議会を作っちゃおう！

●町の行く末を気にする

我々一般人は日々の生計にまけるしかないのではありますが、その何分の一かのエネルギーを、やはりわが町の行く末に思いを至す必要があるのではないかと考えます。

小泉行政改革の本質は積年の国政の失敗を地方に肩代わりさせようというふうなもので、弱肉強食の格差社会をさらに激しいものにし、地方を疲弊させ、ニッポンの民主主義の根幹を揺るがせることなるはずで

す。そうしたなか、我々は生き残りを賭け4島合併の道を選んだからには、とにかく全員が本気になるほかはないということであります。本気というのは漫然と予定を消化するのではなく、旧町村時代に取組んで来た、あるいはこれから取組もうとしている施策も、改めて再検討する必要も出てくるであろうというふうに思います。

●みんなで強くたくましく

一つの例をあげれば、上島架橋生名橋の実現が既成事実となったからには、生名中学校の特別教室の老朽化に「建て替えで応じよう」などの旧村案など

夏の思ひ出

ヒナが木から落ちたア

弓削松原 快水浴場海開きの日(七月十五日)の夕方、町内のある主婦から「アオバスクのヒナをひろったんだけど・・・」と相談を受けた。聞くと松原に木から落ちたヒナが「羽が怪我して落ちて飛べない」「もう親が見捨てられた」と言つたオトナがいて、それを聞いた子どもが不憫がり、連れ帰って世話してやろうと言つた。ほだされてつい連れ帰ってしまったものの、いけないことをしてしまったの思いも強い・・・というのであった。



写真提供 竹林清志氏

「わが子を見捨てない」ニッポンの昨今、若い親の子殺しや、少年の親殺しなど異常な事件が相次ぐ。「親に見捨てられ・・・」の言葉にいたく心を震わせた児童の存在は尊くすら感じる。ではあるがこの度はとりあえず元の場所へそのヒナを戻したらとアドバイスし、現場に向かった。小さな段ボール箱を抱えた児童が現れた。「アオバスクかい？」とぎくごうたという。ふたりにヒナをある松の木の方方に座らせた。彼は後ろ髪引かれるまま帰っていった。数分もしないうちに林の中を黒い影がとびまわりはじめた。

あたりはほとんど暗くなる。宮の境内では子ども達を対象に映画会がたけなわ。人出は多く騒々しいのだったがアオバスク一家にはかえってよかつた。翌朝、同じ木の地上二メートルほどのところにヒナと親鳥が止まっていた。

午後には訪れてみると、もう相当高いところまで移動して、今度は木から木へと羽ばたいて移っていた。一所懸命飛ぶ練習をしているように見えた。そしてむかえた翌日。六羽のアオバスク一家は、例年のことくらい揃ってどこかへ移動したとみえ、昼間の松原その姿を見ることができなくなった。めでたしである。

生名中学校と弓削中学校の統合によって生まれる新たな展開に目を向けるべきでしょう。町民一人一人が強くなり、もの言つ有権者として智慧もだし、汗もかく。いと思えばますます動いてみる、そういうことが肝要ではないかと思えます。

●一人一人が勝手連合を

かつて北海道で横道孝弘氏を支援する団体が、頼まれもしないのに勝手に連合し、「勝手連」と名乗り、強制も見返りも求めず選挙運動を展開し、北海道で初めて保守系候補を破つたことがありました。そのひそみにならえば、一般上島町民が勝手に各種勝手審議会とか「勝手委員会」などを立ち上げ、献策や意見書を行政庁に提出をするなどの活動も面白いかもしれません。(裏面に話題にした矢祭町の広報の一部を読み物として掲載いたします。)

8月は23日も

「上島おもしろ交流クラブ」

毎月第3水曜・午後7時～9時

場所:せとうち交流館体験交流室

問い合わせ:77-2760 (竹林清志) 77-3072 (平山)

●ミニ講演や時の話題で交流。お気軽にお立ち寄りください。

★「Fのさかな」という冊子が送られて来た。「能登半島はFの文字に似ています。能登半島はさかなの宝庫です」とある★能登の文化と逸品を世界に、ということで民間団体「能登カルチャークラブ」〒926-0021 石川県七尾市本府中町ヲ部 8-2 <http://fsakana.noto.jp/> が発行する A4版三十数ページのフリーマガジンだ。季刊で広告収入で発行を維持する★能登は北前船の中継地として栄えた歴史がある。そうした歴史と伝統は住民の血肉として生き続け何かコトを始める時センスとして現れる。ここでお見せできないは残念だが美しい情報誌だ。逢ったことはないがインターネットで知り合った友人が編集に携わって創刊準備号を届けてくれた。第1号は10月刊★最初はプロの胸を借りての編集だがやがて自力でと。かつて栄えた地の人々がもつ固有の気概、誇りだろう。★さて、ひとつわが町でもどうだろう。創刊準備号、希望者に1冊お分けできます。



尾道市立因島図書館 0845-22-8660

とじよかん夏まつり

8月20日(日) 2時~3時(1時45分開場)
芸予文化情報センター 多目的ホール

演劇「ぼくたちの八月」

童心劇団マンボウ 上演

無料

小学校最後の夏休み、ただ一つ出された宿題は、宝物をさがしてやること。マッペン、ちえっぺ、がぼちゃんの三人は、宝物をさがしに「ねこの島」へ... さてどんな宝物が見つかるでしょうか?



しまなみ交流館 シエルネ (0848) 25-4073

【映画情報】

8月19日(土)

おのみち市民大学 親子講座
映画上映 「ちゃんこ」

| | |
|-----|----------|
| 1回目 | 開場 10:00 |
| | 開演 10:30 |
| | 終演 12:30 |
| 2回目 | 開場 12:30 |
| | 開演 13:00 |
| | 終演 15:00 |
| 3回目 | 開場 15:00 |
| | 開演 15:30 |
| | 終演 17:30 |

当日券
一般 1,800円
学生・高校生 1,500円
中学生以下3歳以上 1,000円

特別割引券
一般 1,500円
学生・高校生 1,300円
中学生以下3歳以上 800円



出張役場に 500件を超す利用

職員は自宅を役場とする出張役場制度は、小さい町ならではの強みとして、目下小規模な町では、この強みを活かして行政サービスの向上を図るべく、様々な取り組みが行われている。中でも、出張役場の活用が、市民サービスの向上に大きく貢献している。出張役場の活用が、市民サービスの向上に大きく貢献している。出張役場の活用が、市民サービスの向上に大きく貢献している。

1年中休まない窓口

町民の多くがサラリーマン化し、また町外へ働きに出ている現状から、役場に来れない方のために、役場窓口の業務時間を拡充しました。休日、夜間、早朝の業務に携わらない職員は、普段の業務に専念していただき、必要に応じて、全職員が交代でこの業務を行う体制が確立されています。これまでには、税務関係証明書の交付、2,200件の交付を行いました。

時間拡充窓口業務(戸籍・印鑑証明・住民票)交付数

| 区分 | 平成15年度 | 平成16年度 | 平成17年度 | 平成18年度 | 計 |
|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 平日朝発行 | 51 | 60 | 78 | 16 | 205 |
| 平日夕発行 | 88 | 84 | 187 | 34 | 373 |
| 土曜日発行 | 164 | 290 | 365 | 39 | 820 |
| 日曜・祝日発行 | 203 | 226 | 254 | 23 | 726 |
| 計 | 506 | 640 | 663 | 112 | 2,121 |

※15年度は8月から3月まで、16年度は4・5月分のみ
※16年度は1年間に交付された総件数の6.2%、17年度は同8.5%となり利用者は増加、サービス内容は着実に浸透してきています

コスト削減の取り組み

行政改革の町一般職員数は38名ですが、機構改革により機構を最小限に統合し、事務事業の効率化に努め、現在は8名減の30名と減っています。これからは50人台が適正規模としてさらなる削減を進めるほか、役場業務の一部民間への委託、補助金・負担金、委託料の見直し、物件費の削減、公共施設の一元管理によるコスト削減の取り組みを進めています。



小さな役場のその後

行政サービスは向上したか

平成18年10月に「市町村合併をしない矢祭町宣言」を自己決定自己責任による小さくても自立独歩、自立したまちづくりを進めていく道を選択した矢祭町。その後、地方交付税の大幅な削減を視野に入れながら、行政の効率的な運用をはかるため、平成15年8月から様々な行政改革を断行してきました。

平成17年12月に、町の最高規範である自治基本条例(平成18年1月1日施行)を制定し、「自立するためのあらゆる施策を講じ、人口減少に歯止めをかけ、適正規模の共同社会を目指す」「思われた自然環境の中で、夢をもって子育て、子育てのできる「元気な子ども」の声をかきこえるまちづくりに努める」ことを、町の目標として明文化しました。本年8月でまる3年を迎える行政改革の成果、職員意識はどうか、さらに進めなければならない課題を含めて、その中身を検証します。

広報やまづり H18. 7

【合併しない町、矢祭町の広報平成18年7月号の一部】広報誌は行政からの一方的お知らせだけでなく施策の検証、特定の問題について特集も組める。活用次第で大きな可能性がある。

チン説百人一首・20・一枚札の巻 青木喜代子

むらさめの露もまだひぬまきの葉に 霧たちのぼる秋の夕ぐれ

この歌は「かるた会」では真つ先に覚えなさいと教えられる。一枚札と言つて「む」で始まる歌はこれ一首。だから「む」と聞いたらずくに取ればいい。

先日、久しぶりに「かるた会」に行った。二十人ほどで熱気ムンムン。最後は源平合戦をした。百枚の札を五十枚づつ左右に分けて取合うあのゲームである。

子ども中心の会なので読み手以外のおとなは私とあとひとり。私が入ったチームは「ワライおばちゃんがいるから勝ちだア」とすっかり頼りにされてしまった。私の内心はざわめいていた。今更あとのまつりだけが完全に百首覚えきる前に休んでしまった、それからはや数年がたつ。この年月は長く、だから全く戦力になるまいと。がそれを口には出せない。

いよいよ始まった。隣の女の子は「シャーッ」と音がするくらいのスピードで取るわ、取るわ。「すごいーお見事ー」と私。こちらはオトナの余裕を見せてるつもりだけど手じたちは手を緩めることなく取りまくる。「このままではいかんと私も続けて何枚か取った。すると「おばちゃん、なかなかやるね」と汗でねとねとの腕をひつつけてきた。

歌の意味もわからずかわいい声で取っている横顔を見ていると、勝手気ままな解釈をしてクツクツ笑っている自分が恥ずかしくなってきた。歴史ある文学を笑いの種にして申し訳ない、とすこしだけ反省した。

帰り際に「おばちゃんまたねしつかり覚えてね」と励まされた。その子は六歳。おそろいである。もはや競技かるたで彼女に勝てそうもない。やっぱりさつきの反省は取り消しこのままいつも通り気ままな読者をつづけるしかないな。

弓削通信

第108号

発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072



2006/08/27
浜都地区で行われた
家庭用消火器の自主点
検と放出訓練。炭酸ガ
スの代わりに水を詰め
た消火器(使用感ほほ
ぼ同じ)を使って。
「習うより慣れる」

地区の自治意識を高め

「防災力」に生かさう

広報活動の一環を担ったための「下弓削区設置規約」というものがあ
り長い間それをよりどころに地区
長会の合議制で活動してきた。
成文化した住民自治の行動規範
(いわば憲法のようなもの)がない
ままアウンの呼吸で行政庁への要
望なども消化してきた。それでコ
トが足りて来たともいえる。それ
はそれでいいとしたことなのだが
「地区の自治」という立脚点が明
確でなかったため、自分たちの生
活を守ることに限っては役所任
せ、ついて流れる、の風潮を払拭
することができなかつたように見
える。

には牛尾であったかもしれないが、
このたびの「自治会規約」「自主防
災規約」の制定によりそれを脱却
できるのではないかと期待され
る。

★何事によらず時節がある

実は「自治会」と冠した規約は
いまから二十数年まえに「緑が丘
町管住宅自治会規約」というのが
あった。当時筆者は、Uターン者
で、上弓削に出来たばかりの
「緑が丘町管住宅」に入居を許さ
れた。そして地区機能を確立す
るため自治会規約の制定にかか
わった。が、そのころも行政広報
活動の一環としての面がつよく、
規約にうたってはみたものの、住
民には自治意識は乏しかったよ
うに思う。

数年後転居したのでその後の
推移を詳しくは知らないが、「住
民自治」も成熟してはいかず「町
管住宅自治会」はいつか上弓削区
に併呑されていったようである。

☆鉄は熱いうちに、こわす

自治意識は、権利と義務意識
の希薄なところには育たない。し
たがって自主防災意識も育ちに
くい。といいつつ、あらためて
「自治会」設立を目標とした下弓
削区の取り組みが町の今後にも
けよい影響を及ぼすことがあれ
ば素晴らしい。

☆腕より始めよ

「自治会」規約を定めたからと
言っただちまちに自治意識がた
かまるわけではないが、地方自治
地方分権、の流れになつては昨
今、その実効性を得るためにも、
各地区住民が自治意識を持つこ
とはとても意義深い。
下弓削区はいまでは規約的

★先端になるか末端になるか

ことわざ好きの人なら「鶏頭と
なるも牛尾となるかなれ」とい
うのは先刻ご承知だ。意味はちが
うが野生動物や魚類・鳥類の世
界では先頭としんがりやが瞬時に
いれかわり向かう方向が変わるこ
とをよく目撃する。この柔軟さは
弱きも強きも、ひとしく生き延
びられるよう人智をこえた何者
かが与えた能力としかいえない
ない。

見事なまでに意思統一が図ら
れているかに見える。それらの行動
は、実はただ単にその群れを構成
する個々の能力にあまり差がない
から可能なのかも知れない。でも
そういう単純な仕組みが素晴らしい。
これ为例えは市町村とか県、
国というふうに置き換えてみると
ではなぜ社会情勢に応じて機敏
な対応がとれないのかと常々不思議
に思つてきた。

★旧態を見直す機運が

近年南海大地震の可能性が大
きいといつことだが町も国の方
針にしたがい自主防災意識の高
揚と地域の自主防災組織の立ち
上げが行政の後押しで進められ
ている。弓削に関して言えば、佐
島区、上弓削区の自主防災規約
が早々と定められている。下弓削
区はこれからである。

人間社会は巨大で複雑だから
一旦動き出した事柄は中々軌道
修正できない、そうと達観してし
まえば話の接ぎ種はなくなる。そ
こで無理に話の糸口をさがす
と……

☆毎度防災キャンペーンだが

九月一日は国の定めた「防災
の日」とかで全国さまざまなキャ
ンペーンが繰り広げられる。記念

考えてみれば自主防災組織を
小割りの各地区が好きなように
定めたのでは、全島、全町の災害
になつたときつまく機能するかの
うかわからない。災害の少ない瀬
戸内海という地域に長年住んで
町民一般には、台風に関わる風
水害、火災に関わる災害の他に
大規模災害のイメージを描くの
もなかなかむづかしいことかもし
れない。そういうこともふまえて下
弓削区(全九地区)で構成されてい
る(では新しく「下弓削区自治会
規約」と「下弓削区自主防災規
約」(ともに仮称)をワンセットで
制定する作業が進められている。
下弓削区では地区行事(島四
国、盆、祭、清掃等)と、行政庁の

特別展 西日本で初公開
よみがえる源氏物語絵巻
平成復元絵巻のすべて

内容
○国宝「源氏物語絵巻」平成復元模写
科学的調査と現代の日本画家の技によってよみが
えった国宝「源氏物語絵巻」の復元模写19図
すべてを紹介

平成18年 8月18日(金)～9月24日(日)
広島県立歴史博物館
広島県福山市西町2-4-1 TEL 084-931-2513

JR福山駅前
お城側出口
開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日：月曜日(9月18日は開館)
入館料：一般…900円(700円)

「上島おもしろ交流クラブ」
毎月第3水曜・午後7時～9時
場所：せとうち交流館体験交流室
問い合わせ：77-2760 (竹林清志)
77-3072 (平山)
●ミニ講演や時の話題で交流。
お気軽にお立ち寄りください。
9月は20日(水)です。

尾道 シェルネ
映画上映
「仮面ライダーカブト GOD SPEED LOVE」
「轟轟戦隊ボウケンジャー THE MOVIE 最強のプレシャス」

| | | |
|-----------|-----------|--------|
| 9月16日(土) | 当日券 | 1,800円 |
| 1回 10:30～ | 一般 | 1,500円 |
| 2回 13:00～ | 学生・高校生 | 1,000円 |
| 3回 15:10～ | 中学生以下3歳以上 | 1,000円 |

尾道市教育委員会
生涯学習課
(0848)20-7444

八月はいろいろありました。国会で、郡上市で、地元地区で。



■陳情行

陳情は地元選出国會議員への重要施策の推進への力添えを願う、という内容で

①「生名橋完成後直ちに岩城橋に着工するよう財源の確保に力添えを。」

②「造船振興についてはこれからも「上島町造船振興計画」

推進に支援を願うこと。
 ③ 離島航路の充実に関しては、国庫補助を航路の安定維持に必要な額にしてほしいこと。
 ④ 郵便業務に関するサービス維持については、民営化による離島の郵便業務サービスが低下しないように配慮を願うものでした。

同日、別行動で上京した「上島架橋促進協議会」の代表は町長と併に国會議員および財務省、国交省の担当部局に直接陳情にいきました。

■陳情は、はやらないけど

一昔前は次年度予算編成期になると全国から陳情団が上

ないからに違いないでしょう。

■出る杭は打たれない

席上活発な意見が寄せられました。こうして多くの人がいろいろな視点から発言すれば、もしかしたら思いもしなかつたアイデアが飛び出すかも知れません。この企画をした地区長さんに敬意を表する次第ですが、自分の生きてこられた人生を背に意見を述べられた参加者にはさらに敬意を表したいと思います。

■住民参加の意味

奇しくも下弓削区では巻頭言に書いたように自治会として改めて生まれ変わるうとしていきます。住民自治は住民の個々の確立がまず成され、それが合わさって集団としてのまとまりが達成されればマグマのようなエネルギーをもつことになり、ひよとすると全国に先駆けるアイデアが飛び出すでしょう。

集会在今後も持たれ、学びあひ研究しあう場になれば最高ですね。

■先進地視察と研修簡単報告

さて先の陳情行の帰路、岐阜県郡上市へ視察研修に立ち寄りしました。市の中心郡上八幡は盆の郡上踊りで有名ですが平成一六年三月、奥美濃七町村が合併し人口約四万九千人の郡上市となりました。わが町も同じく一六年一〇月合併です。からキャリアは似ています。わが町が離島同士の合併なら郡上市は冬になれば交通も厳しい陸の孤島(ち)と言いつつ、さすが同士の合併。抱える問題は似通っている点と見えます。

■議員を減せと言われる

市議会議員は合併特例で現在三〇名。次回選挙からは法定二六名になります。それをさらにどう削減するかがテーマだと聞きました。市民からの議員削減へ圧力はよく、二〇名という数字も出ている模様。司会をしていた議員がぼつりとうろ漏らしました。

「町内各種団体のほうが力が強いのか、議員が提案しても出ないことが、市民団体が言う」と実現する...と。いずれこの議員も住民から信頼されない理由が解つてい

■みんなで守る郡上踊り

夜は郡上踊りを見学しました。みんな実に見事に踊っていました。埋もれそうになつた伝統を市民が引き起こし、守つていく姿勢と意気込みを見ました。弓削の盆踊りに郡上踊りの「春駒」という威勢のいい踊りを移入したら楽しいのではないかと考えたこと。どなたかやってみませんか?

▼「議員と集う地区懇談会」で日比の船揚げ場が有効活用できないものかという声があった。施設は漁協管理のものだがトロッコもウインチも備わっていて、一般にも使わせてくれれば助かると。浜都湾には30隻あまりの遊漁船があり、砂浜しかないの船の手入れもやっかいなのだ。ちよっくら見に行ってみると使える施設のようなのに散々。町財政厳しき折からこれはもったいない。▼弓削では漁業補償のかわりに漁協組合員に埋め立て地での作業場占有を認め、元は公金。助け合う、暖かな心が枯れている利用者「自分さえよければ」を形で表現すればこうなるのだろうか。

(写真は日比の船揚げ場風景)



設置者(市町村教育委員会)と学校の状況。
 施設や設備の状況、自己評価の実施状況、外部評価の実施状況、学校評価、情報公開。
 学校への児童生徒の意見要望の状況、保護者の意見・要望の状況、地域社会との連携・協力。
 P.P.P.
 おおい、本当にそんなこと入られて、数値化して評価できるのかいな?
 5段階評価といふこの評価項目といふ、目がテンにしかならない。どなたか決めたんだらうか?
 裕福でエリートコースを歩んだ官僚の方々か?
 はたまた、2世、3世のお坊ちゃん議員か?
 オライ大学教授たちが審議会で喧々譁々の結果なのか...?
 評価のための文書を作成する専任の先生が要るぞなもし。
 現場では「3」を取るための目先だけの努力や苦勞で、子どもを置き去りにしてしまわないか? 才学のない私には、さびはりわからんよな~~~~~



またまたやってきました文部科学省！
 小中学校の授業内容や学校運営などに「評価」をつけるという。これまた昔なつかしい「5段階評価」ときたもんだ。生徒にして問題ありだともめ、ここにきて、学校現場を数値で計るとは！それも「審議」してらんじゃなく決定事項ときたもんだ。
 学校における教育・管理運営それに保護者、地域住民との連携。この3分野からなる各評価項目もなんなんだかなあ...一応列記しよう。
 教育課程の状況、各教科の指導状況、生徒指導や進路指導、特別支援教育の状況。
 安全管理や保健管理・児童生徒の学力、体力。出席状況、全人格的発達状況。
 学校の組織運営・教職員の意欲や資質と向上への取り組み。

ねじりパン (9) 中田ちき

弓削通信

第109号

発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

「弓削丸洋上講座」で訪ねた美術館 どう生かすか歴史と伝統

「地中美術館」

九月七日の愛媛新聞で「美術館のない世界」という記者「ラム」を見つけた。「楽しめる美術館」との意見なのだが、たしかに興味のない人には美術館なんて無くても困らないだろう。来館者減少や財政難。美術館に冬の時代が訪れて久しい。博物館や記念館なども同じではと思われ、環境の厳しさを感している。

この夏、それらの幾つかを訪ねる機会があった。そのひとつ、毎年恒例の弓削商船高等専門学校(第十九回弓削丸洋上講座・伝統と芸術)に参加した。

洋上講座第一日目は午前中2講義を受け午後は寄港した宇野港(岡山県)から、高速定期便で十五分航行して渡った直島にある「地中美術館」を見学した。

この美術館に関して知っていたのは、一、立地条件。(瀬戸内海の島である。瀬戸大橋近くだがルートからは外れている。)二、安藤忠雄設計の美術館である。(建物全てを地中に埋めて島の景観を損ねないようにした。)などしかない。

事物を見学するにあたっては事前に周知の勉強が必要なのが普通ではあるが、逆に予備知識なしで接することで(正否はべつにして)自分の感性の尖鋭度を高めることもある。

高名な画家・建築家・高料金

地下三階建てというのはエニクだった。入館料二千円!。展示作品は「睡蓮」で有名なフランス印象派の画家クロード・モネと現代作家二人の三つの部屋からなり、建物全体が安藤氏の作品だから壁といえどもみだりに手を触れないように、と入館前に白すくめの(なんか新興宗教みたい)係員のあれこれ多い注文。注文の多い料理店より多く、しいには裸になつて身に塩くしようを揉み込めだつたと、すこし冷ややかな気分になった。

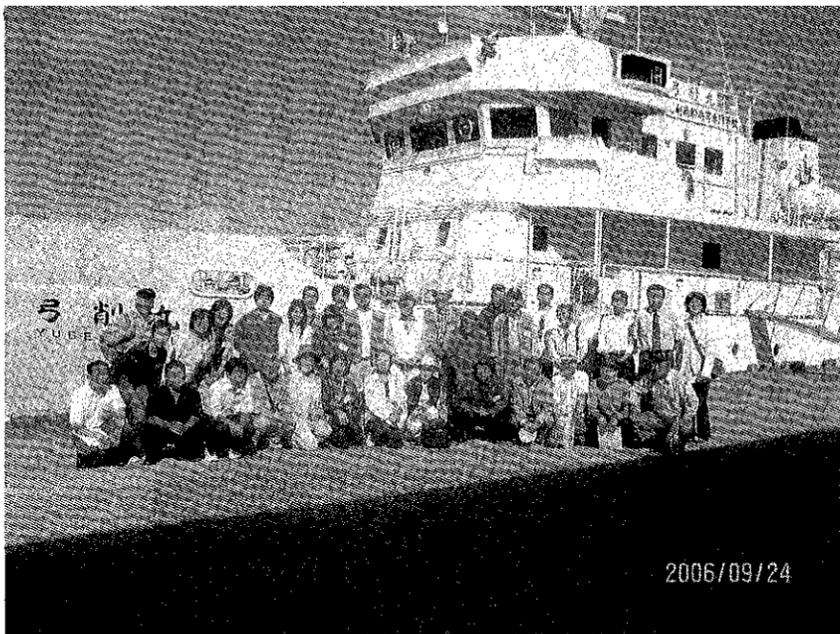
なおしま 観光客年間10万人の直島

現場では迷路のように標識で誘導されながら三角や四角に切り散らされた青空を仰ぎ、地下の庭に日の光をうつけた木賊(とくさ)の群生があつたりして異空間の自然に浸れるものの、個人的には入館前の講釈に悪影響され続けた。しかし各部屋の鑑賞は順番待ちの列ができるほどの混みよつた。それに若いカップルが多い。世に美の理解者は多いのだ!

福も三年置けば福の種

直島は金の地金生産量日本一の三菱マテリアルの企業城下町でかつて島にある銅製錬所の垂硫酸ガス排煙で近隣諸島は軒並み禿げ山になった。緑回復事業が進展しつつあるとはいえ、いまだにその恐ろしい影響の数多くを目の当たりに出来る。直島諸島近辺は、これも「島」こと負の遺産美術館といえるのかもしれない。いや言ひべきであらう。

近年は同工場敷地内に香川県ゴミ不法投棄問題で脚光を浴びた豊島(てしま)の産廃と、直島直産のゴミを溶融して貴金属等を取り出す、「直島エコタウン」事業が始まり稼働している。



2006/09/24

●水島港にて受講生、講師、事務局の皆さん

銅の製錬に始まり昨今はやりの環境問題、資源再生ゴミ焼却にまで至り、常に時代の最先端を突走つた直島町には、だから潤沢な資金があつた。そういう下地と公害の体現地である自責の念があつたので、前町長の「島を文化的な場所」にしたという思いと、受験競争を切り抜ける進研ゼミで急成長した福武書店との企画力が出会つたとき今日の観光リゾート地への変貌の受粉になり得たのかもしれない。

島には二〇〇四年設立の地中美術館のほかベネッセアートサイト直島(直島福武美術館財団)として他にも多くの施設があり、観光、アート・スポーツとなつていて、バス、デイト・スポットとなつていて、十万人の観光客があるようだ。

地中美術館は世界的にも紹介されていて、連絡船やバスに外国人が目立つ。

したたかさに歴史が重なる

「島の観光」として考えてみると、直島は「しまなみ海道」から外れた弓削島と似たような位置にあるが、歴史的にキリシタン大名が支配したり、回船業で成功したり、江戸時代には天領であつたためか芸能や産業の自由度にめぐまれたりとアートの素地は地下水としてあつたのだらう。

弓削丸の洋上講座はその夜、高松港(香川県)にて船中泊。翌日は水島港(岡山県)にとつて返りバスで「野崎塩業歴史館」を見学。帰船して午後の3講義を受

けながら弓削に帰港した。今年中は、四国、関東から例年より数人多い三千人という参加者。この講座は開かれた弓削商船高専の実践の一つとして根付いている。商船学科のみならず学校そのものを体現しているがその価値を学内幹部のどれだけの人が責に当に評価しているのだろうか。今年には校長、副校長とも都合で現れなかつたが、留守を預かる学校を代表する人物は他にもいるだろう。多忙でも、せめて見送りに現れてよい。それは「学校の船」で出航する遠来の客に対する最低限のマナーではなかつたらうか。

学校はお上なのか?

昔から殿様商売、武士の商法などであるが、これに学者の商法も加えてよからう。いずれも足で稼がず、彼我の立場を直視せず座して客を待つ姿勢をからかわれた言葉だ。国立校が民営化されれば法人となつたとしても体質がお役人的で唯我独尊ならいづれはへたる。名も無い市民、地域の企業、OB、行政の応援が城の石垣だと悟らぬままでは今後の発展はとも期待できずではない。存続すら怪しからう。

この講座は来年二十年目を迎える。長い間頑張つてこられた、そしてこれから頑張る先生方と親しみ、多くの仲間と出会い、美術館や博物館をともに見学することが、また冬の時代の文化施設への応援に、そして学校の発展への応援に繋がればよいと願う。

第4回 「美の形式-瀬戸内海の作家たち」展 尾道を描く 塩川高敏展

10月3日(火)~11月5日(日) なかた美術館
月曜日休館※10月9日(月)祝日は営業、翌火曜日は休館・一般500円

特別展 浄土寺蔵 源氏物語絵扇面散屏風

11月3日(祝)~5日(日)



源身け意を始め、源氏物語を感じてご近所行事を拝観していただきます。

特別奉納 蠟燭能 「源氏供養」
11月2日(木)
開演 午後6時

(お問い合わせ) 広島県尾道市東久保町20-28 浄土寺内 源氏絵まつり実行委員会事務局
TEL (0848) 37-5080
URL http://www.erm.jp.com/j

「上島おもしろ交流クラブ」

毎月第3水曜・午後7時~9時
場所:せとうち交流館体験交流室
問い合わせ:77-2760 (竹林清志)
77-3072 (平山)

●ミニ講演や時の話題で交流。
お気軽にお立ち寄りください。

10月は18日(水)です。

※パソコンとプロジェクターを使ったミニ映画会を試行します。

「生ものの記録」黒澤明監督
上映時間113分 モノクロ

核の恐怖に怯えた老工場主がブラジルに渡る計画を思い付き家族を巻き込んでしまう悲喜劇。

平成一八年九月定例議会

九月定例議会は前年度決算認定です。九月二七、二八日

合併後新町になって初めての予算を組み、その決算。以下はおよその数字です。いづれ詳しく町広報誌に掲載されます。

厳しすぎる現状

さて現実問題として上島町の財政現況はどうなのでしょう。全国でもめずらしい離島同士の合併ですが珍しいだけでは食

家庭で言えば借金にあたる町債の決算時における現在高は一般会計、約87億円。一般会計以外の借入金約47億円、計134億円。年間予算に匹敵します。

1(18%)こえると地方債許可団体。25%こえると起債制限団体となる。

公開されている現状分析

平成一六年度決算に基づく愛媛県市町村財政比較分析表(県ホームページ)によると、将来負担人口一人当たり地方債現在高は、愛媛県市町平均48万5983円に対し、上島町は109万2113円



町の危うい存立基盤

今後はさらに全上島架橋、消防庁舎新築、ゴミ焼却施設新築が加わり、公営渡船(魚島、生名)、や各種福祉厚生関係事業、上下水道、生名スポレク公園、岩城物産センター、潮湯、ケーブルテレビなど旧町村で展開していた事業への引き継ぎ練り出しがあり圧縮できるものはそう多くはありません。

ふだん何気なく享受している多くの人にとっての快適な生活空間は砂上の楼閣に見まがうものではないでしょうか。

公務員叩きでは済まぬ

ところで常にやり玉にあがる

有権者にこそ議論してほしい 選挙区と議員定数削減

公務員の待遇ですが先の比較表では類似団体平均を100とした場合上島町は140。その職員給与水準は国を100とした場合の全国町村平均93.7に対し上島町は80。

しかし

人口千人あたりの職員数は先の分析表によると県市町村平均8.8人に対し上島町は22.3人。これをもつてして職員数の削減が叫ばれるわけです。しかし定住人口の今後を考えたばあ単純に職員を減らす議論だけでいいのか?

今後給与水準の引き上げはむづかしい。しかし職員ひとりひとりの「やる気と実行力」をもつて能力いっぱい働きをしてもらうことがまず必要ではないでしょうか。もちろんぬるま湯につかて恥じない職員、この町に帰属意識のない職員では困るがこの町を下支えする人々の働く場を奪うことには簡単には賛成しかねます。

まず隗より始めよう

定数削減と言えば議員定数も行革の目玉です。合併協議の際、「設置選挙に限り旧町村の区域に1選挙区を設ける。設置選挙以後の選挙において、魚島に議員一名を確保できる方法については別途考慮する」との問題ある協定を結んでいま

映画祭 せとだ名画鑑賞会 20周年企画 11月3日祝・4日土 11月3日祝・4日土 ベルカントホール

Table with 2 columns: Time (午後3時, 午後4時, 午後1時, 午後3時, 午後4時) and Movie Title/Content (「役者殿山泰司を語る」, 「新藤兼人監督作品」, 「裸の島」, 「新藤兼人の仕事」, 「かげろう」)

チン説百人一首・21 寝つれないワの巻 青木喜代子

この歌、「うーん、あなた来るって言ったじゃないの。私、夜明までまつたのよ」とすねている姿を想像してしまふ。 お気に入りの衣をまとい、とっておきの香をたぎしめ、いまかいまかと待つていたんだらうなあ。 ところで好きな人と待ち合わせ。どれくらいなら待てますか? 「五分が限度。それ以上は待ちません」「きつと来られない事情があるんでしょ。しばらく待ちます」

弓削通信

第110号

発行者：平山和昭
〒794-2509
愛媛県越智郡上島町
弓削土生318-2
TEL・FAX 0897-77-3072

今年、この町の学校に関して 衝撃的な出来事が二つあった。

現実はどうだ

ひとつは弓削にある県立弓削高校を、定員割れのため来年度から分校扱いにする、との県議会での教育長答弁。もうひとつは、瀬戸内にある二つの商船高専の統合・再編にむけ、二校合同で検討組織を立ち上げるようにと高専機構から要請(実質的には下命)があった、ということ。

もとより生徒数定員割れが続けば統廃合の話が出るのは昨今の常。安心していられた状況ではなかった。にもかかわらず町はもとより学校当局も有効な手段で、どうか思い切ったことを真剣に考えてこなかった。もしこれが自分の財産にかかわることならもつと本気に智慧を絞らなかつたらどうか? 求めなかつたらどうか? ことは単純である。何度も言うように生徒数が確保できない、ただその一点。

本校? 分校? 要は中身だ

県立弓削高校はかつて県立今治西高校の分校だった。卒業すれば有名校「今西」卒の証書がもたらえた時期がある。戦後の混乱期をすぎ庶民もだんだん豊み、高校進学があたりまえになると、弓削分校も地元の高い要望で県立高校に昇格できた。筆者の中学卒業の頃の古い話。子どもも多かった。

当時は進学組と就職組に分かれそれぞれに叶った教育がなされた。いずれにしろ卒業後はいつちよまへの社会人として通用できるように教育されたのだ。

学校は何のためにあるのか

子どもの教育にかぎらず学校とはそもそも何のためにあるか考えたとき、現在の高校定員割れに對処するひとつの道が見えてはこないだろうか。

奇妙に思えるかもしれないが高校に現役中学卒のほかに社会人が入学できる教室を開設すればどうだろうか。定時制という意味ではない。

「いままでの学校でお勉強なんて!、何を馬鹿なことを!」と笑う人は

弓削商船高専・弓削高校

「大学のある町づくり」の夢

すててはならぬ

学校の火を消すな

理事者は

れをいかに情報

正直に出さず、公的にも謝罪し

た。学生の人権を守るふりをして臭いものに蓋、そのことが学生と地域住民を侮辱することになるのだと気づかない。我々はこれからは逐一そうした不祥事の記録を取り公開する。それが学校の指導力向上に協力することになる。

定員割れになれば学生の質の低下に直結する。そして統廃合。これまでも努力はしてきたというだろうが本気であったとは思えない。なぜなら、今回の統合・再編に向けての件でも、学校が町長に事態の説明に現れたのは、十月四日の後期始業式で副校長が学生にむかい「瀬戸内三商船高専がこれから統合・再編に向かっている」と要旨を(まだ教職員は知らな

「学が意味」が解っていない。第一、学校を存続させたいなら、住民みずから立ち上がるしかないだろう。

わすかの定員割れで地域の学校がつぶれる。それは過去嘗々と繰り返されてきた。つづかれるならいなら、定年過ぎてヒマのある我々の世代が、過去の肩書きを振り捨て、孫世代と一緒に最新の教育を受けてみるのも愉快ではなかつたか。ナポレオンの辞書を繰ってみたい。

高専はもうダメ

いっぽう弓削商船高専に関して「根」はおなじである。近年応募者が減り学生の品質保証のために定められた倍率2を割るようになった。その行く着く先は過去すでに町民には経験済みだ。町民もずいぶん質の悪い学生には迷惑を被った。が田舎の人々はやさしく、事あるごとに学生の不祥事をかばって来た。

歴代の学校

「組合立海員学校」を設立した村民の気概と精神を、いつのころから忘却の彼方に押しやられてしまった。今の広大なキャンパスも水泳プールも、みな当時の町長や町民の熱い協力で確保できたものだ。この地に学校がほしいから、子弟の教育が一番の財産になる。

喪なわれた気概と誇り

漂う「高専丸」の船長は、昔この地に現商船高専の前身である「組合立海員学校」を設立した村民の気概と精神を、いつのころから忘却の彼方に押しやられてしまった。今の広大なキャンパスも水泳プールも、みな当時の町長や町民の熱い協力で確保できたものだ。この地に学校がほしいから、子弟の教育が一番の財産になる。

からみんな

私を無にして協力して来た。そのあげくがこれのいた

無理もない。「流れ族」にこの地の将来を思ってもらおうとする事自体が無い物ねだりだった。

学校は誰のものか?

先日新聞に載った記事(十月二八日付愛媛)によると、この弓削商船高専は統合・再編問題に對処する学内の意見集約に若手教職員で構成する「検討ワーキンググループ」をつくる、とあった。そのグループが「学内の意見を聞く場」との位置付けであるにして国立学校のセンター方は偉いのだという色眼鏡を外してみれば、どういつ「若手のみ」という発想そのものがいまの学校理事者、管理者の

下島秋祭り「二代目」曳き桶屋「上陸す」
下島地区は曳き桶屋が老朽化したので「二代目」を東大市若江南町より購入。十月二日、弓削港に上陸。十一月五日、区内でお披露目の運航がされた。



学者の商法世に通じず

われわれには危機はいつと以前から見えていた。にもかかわらず昨年七月、町議会が国務大臣に提出した陳情書のなかにある「存続」という語句が気に入らぬと校長自ら役場にのりこみ書き換えさせた経緯がある。あれからまだ日は浅い。あまつぎこの大事なときに校長は長期病氣療養とかで現場を離れている。

そうしたなか、学内での対処方法も定まらぬ内に不用意に統合再編の話を口頭で学生に公開するような指揮者代理のもとで学校が動いている。これで応募者減に拍車がかからねばお見事!というほかないだろう。

学校だけの問題ではない

県立高校、国立高専、共に滅びるか?。あれもこれも、ではなく、あれかこれかで存続できるのか? ことは学校だけの問題だけではない。学校だけまかせておいてすむ話でもない。これら学校の存続は、すなわち、われらの町の存続にも繋がる。町民は立ち上がるしかない。

eメール往来

From: m@fancy.ocn.ne.jp Date: 2006年10月17日

Subject: 弓削通信

突然メールで失礼します。

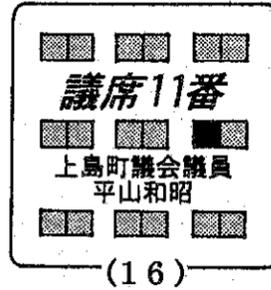
10月15日発行の貴誌を拝見しました。故郷の上島町が夕張市にならないように厳しく議論下さい。便利になることは結構ですが公共投資より若者が定住できる環境作りを優先されることをお願いします。故郷を離れ半世紀、離れた者が立場もわきまえず勝手なお願いですみませんが。

関東地方で40年生活し、昨年、広島へ転居しました。尚、岩城の原さんは寄宿舎で私が3年生彼が1年生で同じ部屋で暮らした記憶があります。

From: ABCD@ybb.ne.jp Date: 2006年10月17日

弓削通信109号拝読しました。議員数のこと、シビアですね。このところ何かと公務員の不祥事などが取りざたされていますが、ややマスコミの「煽り」の感が否めない面もあります。ただ、教師や警察・自衛隊などの不祥事が、このところ特に目につくようになったのは錯覚ではないと思います。

会社は人こそ財産、とは今の時代ではピンとこない方もいるのかもしれませんが、日々、民間企業にて競争のなかで仕事をしている身としては、このような時代こそそのコトバ、と感じています。現状の社員が「多い」のであれば「減らせばいい」と考えるのは、経営者としては2流と考えます。まずは、今居る社員からいかにパフォーマンスを出させ業績に貢献させるか。それなりの戦力を備えるには時間と経験が必要であり、その間のロスを取り返しのつかない大きなものとなる事だってあります。



「焼却施設の入れ」

十月二三日、臨時議会があり工事請負契約2件の審議がありました。1件は弓削大谷に建設予定の「上島クリーンセンター新築工事」6億8千40万円、もう1件は生名地区恵生(えなま)公営住宅建て替え工事(第2期3棟6戸)1億111万5千円。落札率92.8%

「上島クリーンセンター」の案件は本年九月二〇日におこなわれた入札において、調査基準価格7億3千500万円に対し入札高6億4800万円(落札率62.9%)で基準価格より低額だったため落札保留となり、本来は九月定例議会に上程の予定だったものを「上島町入札価格審査委員会」(委員長・助役、収入役、各総合支所長、関係担当課長総勢9名)により、会社現況実績、仕様書等チェックを行い、設計、施工、監理など適正におこなわれるかどうかを調査し、この入札額で契約履行ができると判断されたので改めて今臨

議長選挙に多数派、数の論理か？ 議会は早くも分裂し始めるのか？

■企業努力も、品質保証も
見積もりにしろ設計にしろ町職員がどれだけ価格の妥当性を見極められるかは経費節減の実効性にかかわります。にもかかわらずそのための人材を抱えることが困難なのが末端の自治体の実情です。新たに参入してくる業者が企業努力も品質保証もする優良業者なら今後の公共事業の中身もいよいよ変わってくると思いたい。

■経費節減、単純ではない
予定価格を公表すれば当然それ以下の落札にはなるわけですが、予定価格をぎりぎりまで低く設定できるかどうかは、なかなか正体がかみづらいくるです。本町の公共事業においては予定価格公表後も高落札率ですが落札率という数字だけではなく予定価格が適正かどうかでその評価もかわります。今回のようにいわば価格破壊にもちかい落札率で適正な工事が出るなら今後の公共工事の価格に付いては改めて真剣に研究し、予定価格の低減を指摘さねばなりません。そういう意味でも注目していきたい工

会派「積善会」

■波乱含みの船出となるか
現在上島町議会内には10人を擁する「積善会」という会派があります。会長は魚島の松原議員。魚島2、生名2、弓削2、岩城4議員で構成され、議長はその会派に所属。「今後は強い意志をもって少し強引ではあるが進めていく...」との決意表明があり、なかなか波乱含みの船出となりそうです。

■地域融和の方策あれこれ
同日、議会内申し合わせ事項である正副議長任期2年にもとづき正・副議長選がありました。この申し合わせは、議長職を各地区輪番で、との考えのもと立候補制で選挙を原則とし、立候補者が居ない場合は続投も可として「再任を妨げない」申し合わせであったように理解していたのですが議長には田窪氏がふたたび立候補し、岩城地区の宮脇氏が対立候補。田窪9、宮脇3、無効6票で田窪氏が再選されました。

議員の身分(定数、報酬)の問題、選挙区割りの問題など世間に納得され受け入れてもらえない論議を尽くすべきときに「多数派」という数の論理をちらつかせる会派の行動は、町にとって幸か不幸か、何を誘発するか、まだまだ不透明です。



中田ちぐさ (10)

「学力も体力も生活習慣が左右？」
今日、ベネッセのサイトで表記のタイトルの記事を読んだ。
<http://benesse.jp/blog/20061026/p1.html>
「朝食や睡眠時間、テレビ視聴時間といった生活習慣の確立している子どもほど持久力がある」ことが、文科省の「調査」で明らかになったという内容の記事である。「生活習慣は、学力との相関関係がある」ともいい、「知力、体力ともバランスの取れた成長のためには、基本的な生活習慣が重要であるということ」を浮き彫りにした結果「だとも。(教育動向・渡辺敦 2006/10/26)」
このような記事、統計論のパラドックス、数字のパラドックス...と、切り捨ててしまえばそれまでだが、文部科学省の推奨するところの「早寝、早起き、朝ごはん」についての親心をくすくすの説得がすごい。



をくすくすの説得がすごい。
朝ごはんを食べないでいると、食べた子よりオバカになってしまう。
食べた子の方が、学力が高い。

「こう打ち出されて、必死で朝ごはんを作る親がいるとしたら...政府の思うツボ？」
とにかく、「こう」いう手で訴えてきたか...ここまでできたか...って感じ。
でも、学力にしろ体力にしろ、何もかも「家庭生活での習慣」つてのは本当に大切だと思っ。全くもって大人(親)の責任だとも思う。

ワレ(親)がまともなできていないのに、子に押し付けたり、子に期待したって、どうしようもない。まず、大人から。
大人の生活には直には口出しできない政府は、子どもを使つて? 国民改造を図っている??



「上島おもしろ交流クラブ」
時：毎月第3水曜午後7時～
所：せとうち交流館体験交流室
出席者が話題を持ち寄り話し合います。通りすがりにどうぞ。
ミニ講演会も随時開催。
☎77-2760 座長(竹林清志)
77-3072 (ひらやま)
11月15日です

「弓削通信」投稿募集
読者からの投稿を歓迎します。
800字前後。EメールOK。
提言、情報、本誌の感想など。
(照会のため氏名明記を)
お知らせ
弓削通信12月は休刊です
一足お先に年末のご挨拶を。
「皆様、佳いお年を！」